

# ●モノグラフ小学生ナウ



そうじ

Vol.4-7

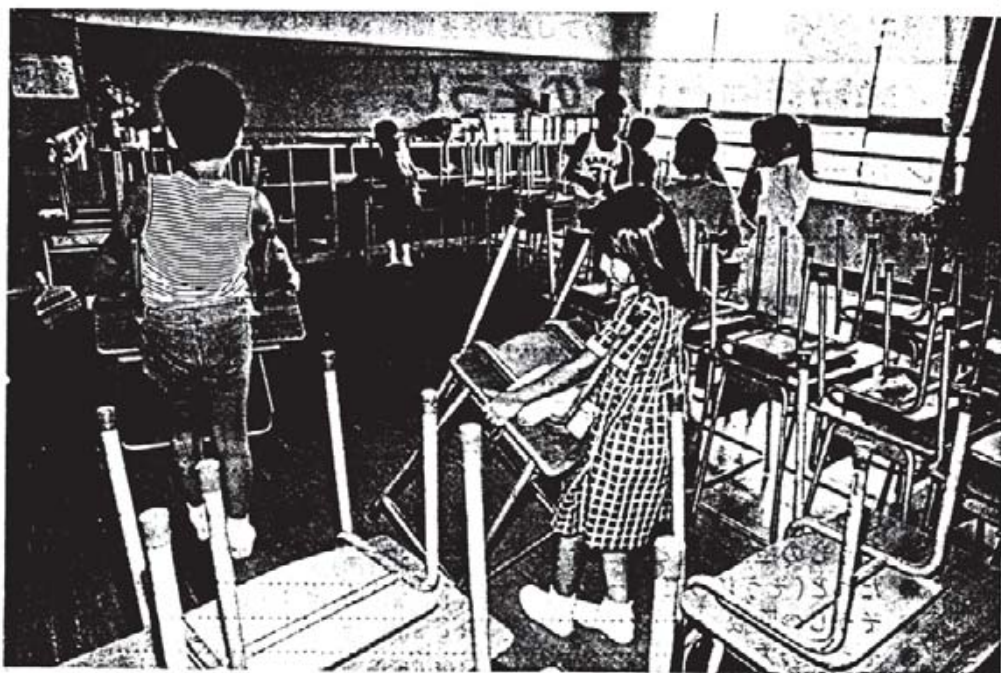
©1984(株)福武書店 教育研究所/加藤智博・和田京子  
放送大学教授 深谷昌志  
千葉市立平山小学校教諭 広森 浩  
東京大学研究生 庄 眞二

## 目次

特集／学習活動としてのそうじ	2
調査レポート／そうじ	
要約	6
1. サンプル校の概要	8
● 調査概要	8
● 学校規模	9
● 校舎や敷地のようす	11
2. そうじの全体像	13
● いつそうじをするか(時間帯とそうじを開始する学年)	14
● そうじの担当場所と担当者	16
● だれと(そうじの班)	19
● そうじの回数	21
● そうじの方法	22
● そうじの重視度と効果	24
3. 学校規模とのかかわり	26
● 大規模校では	26
● そうじの効果	31
● 小規模校では	32
4. より有効なそうじ指導法をさぐる	34
● 現在の指導方法の有効性	34
● 有効な「たて割りそうじ」	36
● そうじ指導のきめ手は教師の熱心さ	37
まとめに代えて	41
シリーズ／講座・子ども調査入門⑦	
回答選択肢のつくり方	42
資料 調査票見本および集計表	48

# 学習活動としてのそうじ

放送大学教授 深谷昌志



## そうじは教育か

どこの学校でも、昼休み前後、あるいは放課後に、そうじをする子どもの姿を見かける。自分たちの使っている場所なのであるから、そうじをするのはあたりまえだ。それに、「現代の子どもは生活の技能に欠けるから、そうじをさせることは、今まで以上の意味がある」とそうじをとらえてしまえば、それで終わりであり、全国調査「そうじ」などといったテーマは浮かんでこない。

しかし、やや理に走る形の議論をするなら、

子どもたちは勉強をしに学校へ来ているのであって、そうじをしに登校しているのではない。それに、そうじは子どものためというがそれは、そうじを業者に頼むと経費がかかる。そうした安上がりの教育の一環として、子どもにそうじさせているのであって、そうじは教育的という言い方は誇張にすぎる……、というような論理が成り立とう。実際にも、欧米などの学校では、そうじは業者に頼み、子どもにさせない国が少なくない。

もちろん、この問題は、「勉強」をどうとらえるかにもかかってくる。特に小学校では、算数や国語に限らず、人間形成をささえるさ



さまざまな面が教育の対象となる。もともと、生活教育や体験学習、経験カリキュラムなど、生活を純化し組織化した形での学習が、子どもたちにとって、必要だという考え方も根強い。

したがって、給食指導と並んで、そうじが学習活動の中に位置づいたとしてもおかしくはない。しかし、かりに、そうじが、そうした教育性をもつのだとしたら、その他の学習と同じように、ラフなものであっても、教育目標がかかげられ、展開やら流れに工夫がこらされ、指導計画の作成が必要となる。

学校によって、さまざまな形があるとは思いますが、多くの場合、そうじは全校的な、そして毎日の行事だけに、そうじのさせ方をめぐって、つまりそうじの管理に関して、話し合いの対象となる。しかし、そうじの教材性について、議論を煮つめたという学校は多いと言えまい。

換言するなら、そうじに教育性が存在するのはたしかだが、それはややもするとたてまえにとどまり、現実には、便利だから子どもにそうじをさせているのが、そうじの実態となる。

## 家庭の中でのそうじ

ここで、視野を子どもの生活全体の中に広げてみよう。子どもたちは、家庭の中でも生活しているのであるから、そうじという点では、学校よりむしろ家庭でのそうじがどうなっているのかが気になりとなる。そして、かりに、子どもたちが家庭でよくそうじをしているのなら、そうじは身につけていると考えられるので、教育性の観点からそうじの重要性を説く論理は希薄になる。

ちなみに「小学生ナウ」のシリーズでも子ども部屋のそうじなどについて、何回かの調査結果を発表している。その中のいくつかを紹介しておこう。

### 1) 子ども部屋のそうじ(「小学生ナウ」子ども部屋vol. 4-1)

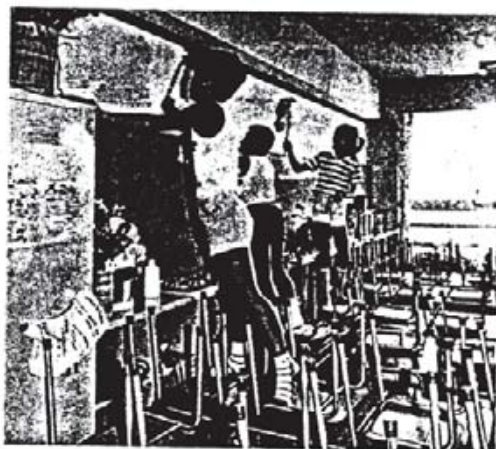
	男子	女子	全体
① ぜんぶ子ども	7%	11%	9%
② たいてい子ども (小計)	21%	35%	28%
③ たいてい家の人	44%	40%	42%
④ ぜんぶ家の人 (小計)	28%	14%	21%
	72%	54%	63%

### 2) 手伝い——毎日のようにしている割合 (「小学生ナウ」手伝いvol. 1-5)

	男子	女子	全体
① 自分の食器を流しへ	40%	62%	51%
② 食器並べ	22%	40%	31%
③ ごみすて	11%	11%	10%
④ 食器をふく	4%	9%	6%
⑤ 洗たく物をたたむ	3%	8%	6%
⑥ 食器を洗う	3%	7%	5%

つまり、自分の部屋のそうじをしているのは「たいてい」を含めても4割。そして家事の手伝いは、①自分の食器を流しへ運ぶ、②食器並べを除くと、毎日している子の割合が1割前後となる。中でも、自室のそうじを含めて、家事を手伝っていない男の子が多いのが目につく。

それでは、中学生の場合はどうか。「モノグラフ・中学生の世界」の「女子中学生」(vol. 8)の中から、数値を拾ってみよう。



	男子	女子	全体
① 自分の部屋のそうじ	7%	11%	9%
② 洗たく物をたたむ	2%	5%	4%
③ 茶わん洗い	2%	9%	5%
④ 茶わんふき	2%	8%	5%
⑤ 居間のそうじ	1%	2%	2%

(「毎日のようにしている」割合)

勉強が忙しくなるためであろうか、それとも部活で疲れるのか。理由はともあれ、手伝いをしている中学生の割合は、小学生とくらべ、むしろ減少する傾向を示している。

なお、この調査の中で、自分の部屋についてのそうじは、以下のような数値である。

	男子	女子	全体
① 毎日している	7%	11%	9%
② わりとしている	31%	39%	35%
③ ときどきしている	38%	32%	35%
④ あまりしない	15%	13%	14%
⑤ ぜんぜんやらない	9%	5%	7%

このついでに、高校生についての数値を紹介しておこう。「モノグラフ・高校生'81」の「異性・結婚・家庭」(vol.4)からの引用である。

#### 1) 自分の部屋のそうじ

	男子	女子	全体
① いつも自分	29%	52%	40%
② かなり自分	21%	23%	22%

③ 半分半分	21%	14%	17%
④ かなり親	20%	10%	15%
⑤ いつも親	9%	2%	6%

#### 2) 自分の下着の洗たく

① いつも自分	2%	22%	12%
② かなり自分	2%	12%	7%
③ 半分半分	3%	19%	11%
④ かなり親	9%	22%	15%
⑤ いつも親	84%	25%	55%

さすがに高校生ともなると、自分の部屋のそうじをしている子は、男子の5割、女子の75%となる。しかし、それでも、男子の半分、女子の4分の1は手伝っていないのであり、そして、2)でふれた下着の洗たくの場合、している生徒は、女子でも34%と3分の1程度にとどまっている。

## 家庭と学校との混乱

このように、中学生や高校生を含めて、自分の部屋のそうじをしていない子どもが少なくない。それにもかかわらずというべきか、それとも、そうした現実があるからなおのことなのか、いずれにせよ、子どもたちは、学校で毎日のようにそうじをしている。

したがって、子どもたちの生活実態を中心に考えるなら、そうじをしなくてよいのが家





庭、そして、そうじをしなければならないのが学校となる。

さらに言うなら、自分のもので、しかも長い時間、生活をしている自分の部屋のそうじをしないでよい。それだけに、子どもたちはそうじをする習慣が身につけていない。そうした子どもたちが、学校ではそうじをさせられる。そうだとすると、子どもたちが学校でいやいやそうじをしているのが、むしろ当然なのかもしれない。

こう考えてくると、自分の身の回りのことは自分でする、あるいは自分の生活している周辺を自分の力できれいにしておくといった生活習慣の形成が遅れており、その原因は、子どもがするより先に手伝ってしまう母親たちの態度に求められよう。

したがって、そうじのしつけを子どもトータルの中で問題にするのだとすれば、家庭の協力を求めるのが必要となる。

このところ教育関係者の間で、学校、家庭、そして地域という三者の関係が問題にされることが多い。地域には遊びを中心とした独自の機能があり、そして家庭も、しつけなどの面で教育力をもち、学校も学校としての役割を果たす。そうした形で地域、家庭、学校の三者が、それぞれの独自の機能を果たしつつ、たがいに協力しあって子どもたちの人間形成を見つめるのが、理想の姿なのであろう。

しかし、放課後、学習塾通いをする子が増加して、学習の場が学校から家庭、そして地域へと移行している。そうした反面、地域の中で友の姿が消え、遊んだり友とふれ合ったりする場が、地域から学校へと変わりつつある。

そうした例が示すように、地域、学校、家庭の境界があいまいとなり、そして時には、機能の混乱が生じているのが、子どもの教育をめぐる現実の姿である。

そして、すでにふれたように、そうじについても、これと同じような役割の混乱が生じ



ている。

子どもたちの生活技能が低下している。それに、学校は子どもたちの生活している場である。さらに、そうじは友だちとふれ合う機会にもなる。そうしたことを総合的に考えると、学校で、子どもたちにそうじをさせることは必要であろう。もっとも、教育活動の中に位置づけるなら、そうじのねらいをもう少し練り直して、そうじの教材性を高めるべきであろう。

しかしそれとは別の問題として、学校としては、生活習慣の形成や働く態度を身につける、あるいは、人に役立つことをするなどの面から、家庭の中でのそうじや手伝いの徹底を求めていくべきであろうし、地域の中でも、そうした場を設定したい気持ちがある。そうした働きかけをしないで、学校でのそうじのみを実施すると、学校は子どもにとって、そうじをする場になってしまう。つきつめて言えば、家庭や地域でそうじをしているという実態をふまえて、学校でもそうじをしているというのが、そうじをめぐる理想の形なのであろう。しかし、そうした考察は改めて行うこととし、以下、今回の調査結果の紹介に入ることしよう。

# 調査レポート／そうじ

放送大学教授 深谷昌志

千葉市立平山小学校教諭 広森 滋

東京大学研究生 庄 健二

## 要約

### ① そうじの時間帯と担当学年



まず、時間帯としては、「給食と午後の授業の間にそうじをする」が77%を占める。1年生の最初から担当させる38%、1年生のとちゅうから担当させる52%と、1年生のうちにそうじを担当させる学校が9割に達する(図2)。

### ② そうじの担当場所・担当者・回数

普通教室から校長室にいたるまでのそうじを児童が担当しており、主事さん(用務員さん)の担当は、教員用トイレ、給食室、宿直室のみである(図3)。また、窓ガラスやボールをのぞいてはほとんど毎日そうじを行っている(表1)。



### ③ そうじの班

学級をこえて班を作ったり、いわゆる「たて割りそうじ」を行っている学校は少なく、たいてい学級の中の班で担当している(図4)。



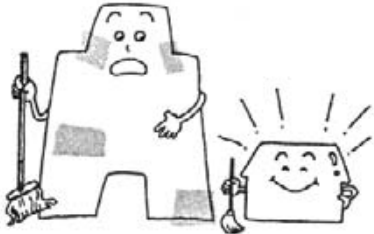
### ④ そうじの重視度と効果

そうじを重視しているわりには、そうじの効果があがっていないと考えている(図6)。



5

### 学校規模とのかかわり



大規模校では、そうじを重視しているわりには効果があがっておらず、小規模校ではあまり重視していないにもかかわらず、効果があがっていると考えている(図7、図8、図9、図10、図11、図12)。

6

### 現在の指導方法の有効性



そうじ時の服装をきめたり、そうじに力を入れる日をきめても、そうじそのものに効果はなかった(図17、図18)。

7

### 有効な「たて割りそうじ」

「たて割りそうじ」を行っている学校ほど、そうじの効果があがっているというような結果が得られている(図20)。



8

### 教師の熱心さ

教師がそうじの見回りをするなどの、教師の熱心さがそうじの効果を高めている(図21)。



#### 調査概要

対象●全国の小学校の教務主任ないし清掃担当の教師  
サンプル数●1,020校

期間●昭和59年2月～3月  
方法●都道府県ごとにほぼ10分の1の小学校を抽出し、質問紙を郵送



# 1. サンプル校の概要



## 調査概要

まず、本報告書の背景となった調査方法についてふれておこう。

対象 ・全国の小学校の教務主任ないし清掃担当の教師

期間 ・昭和59年2月～3月

方法 ・都道府県ごとにほぼ10分の1の小学

校を抽出し、質問紙を郵送

サンプル数 ・1,020校

つまり、10分の1の抽出率で小学校に質問紙を郵送し、主として教務主任から回答を得る形をとった。

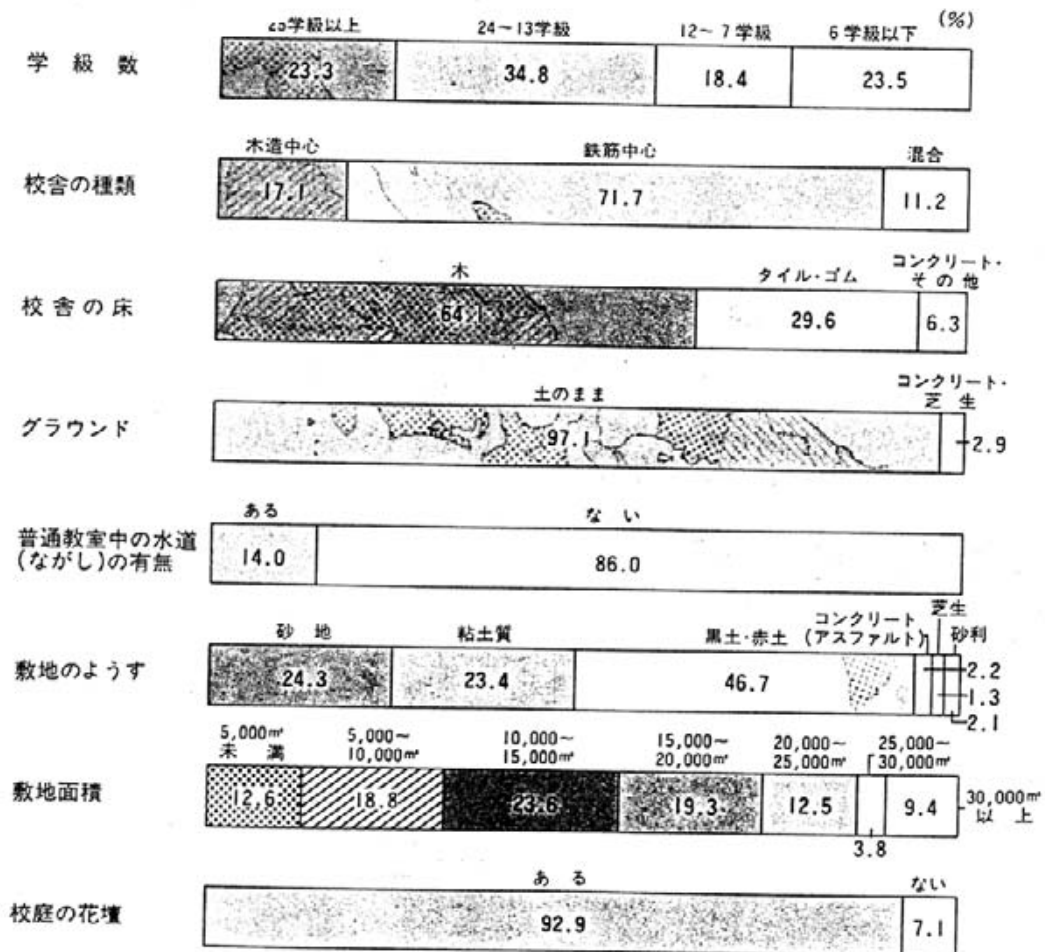


## 学校規模





そうじの問題は学校規模の影響を受けると予想されるので、結果の紹介に先だて、学校規模についてふれておこう。本調査では、全校の学級数によって以下のように学級規模を4つに分類した。それによると、25学級以上のいわゆる大規模校が23%、24学級から13学級の中規模校が35%、12学級から7学級の小規模校が18%、6学級以下の単・複式学級

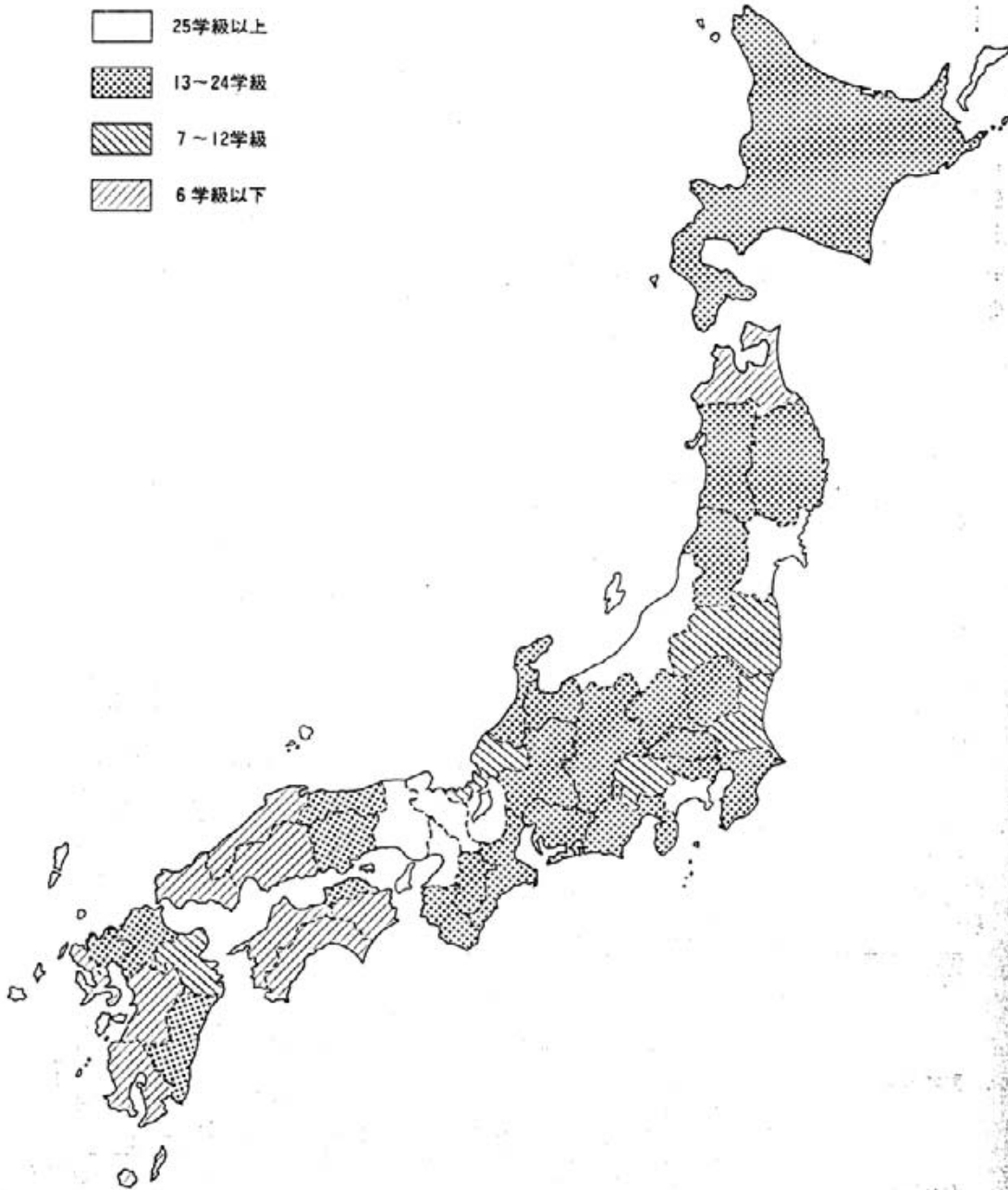
校が24%を占めた(図1)。なお、地図1は、都道府県別にみて、学級数の最大値が上の4つのカテゴリーのどこにくるかを示したものである。この地図によれば、北海道・東北・関東・中部・近畿地方に中規模校以上の学校がみられるのに対して、中国・四国・九州地方には規模の小さな学校が目につく。

図1・サンプルの概要



地図1・学級数

-  25学級以上
-  13～24学級
-  7～12学級
-  6学級以下



沖縄..... 

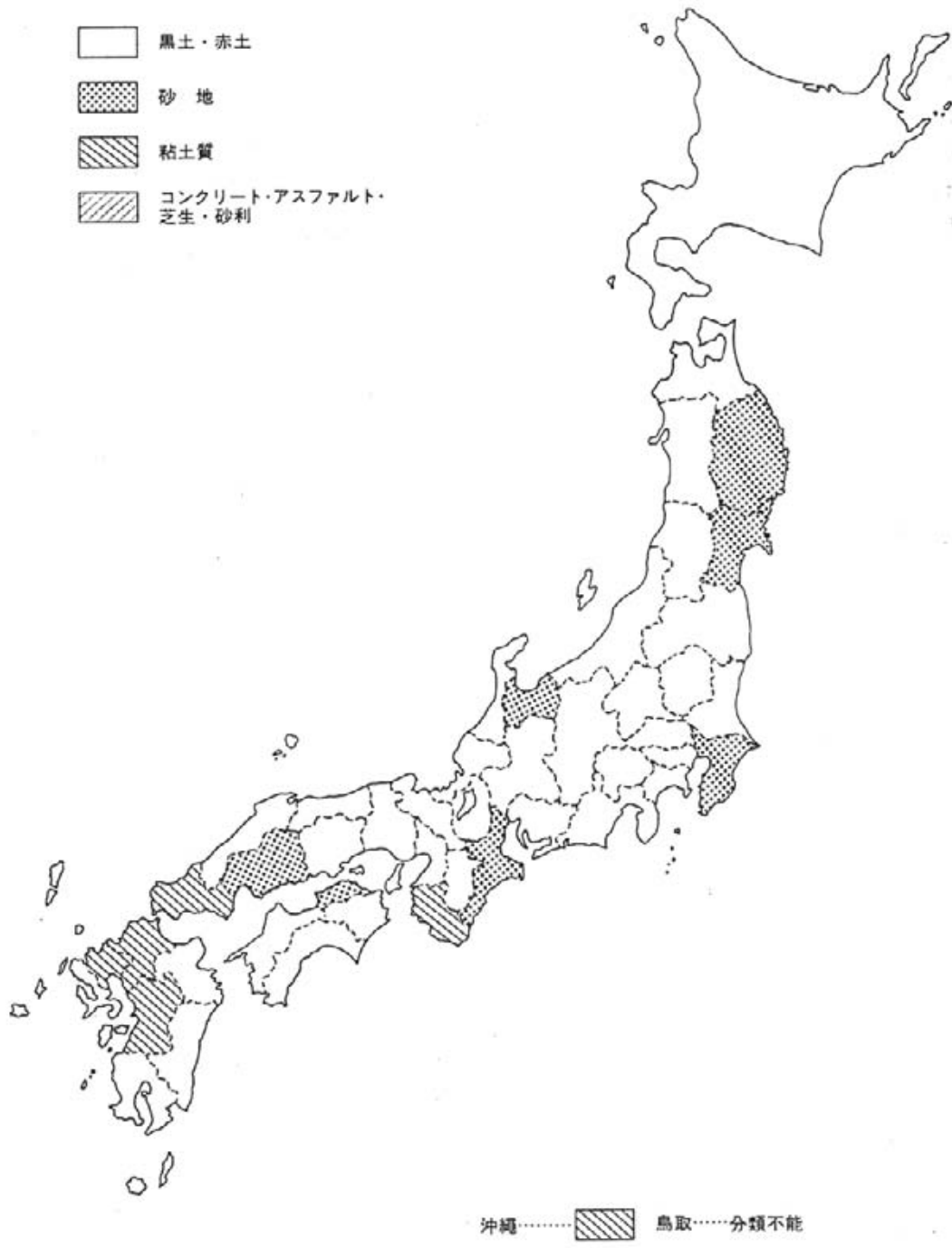


## 校舎や敷地のようす

校舎は図1に示すとおり、鉄筋が中心を占めており、床は木が64%、タイル、ゴム、コンクリートなどは36%にとどまっている。グラウンドはほとんどが土のままであり、敷地は47%が黒土や赤土で、以下、砂地24%、粘土質23%などとなっている。なお、地図2の

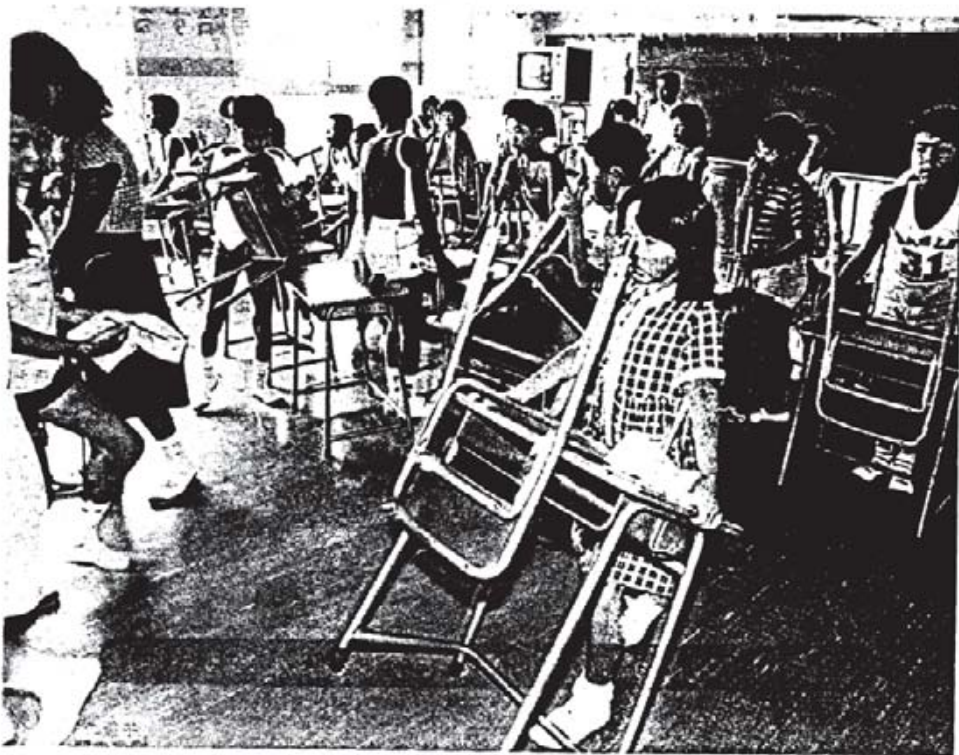
都道府県別の敷地のようすをみると、多くの県の学校は黒土や赤土であることがわかる。なお、敷地面積はじつに多様だが、全体としてみると、1万㎡から1.5万㎡の学校がもっとも多い。

地図2・敷地のようす





## 2. そうじの全体像



このように、各地の学校がさまざまな立地条件をもっていることはたしかだが、はたして、それらの立地条件に対応して、さまざまなそうじ活動が行われているのであろうか。ここでは、そうじの全体像を、いつ（そうじをする時間帯と担当学年）、どこを（担当場所）、

だれが（子どもの担当と子ども以外の担当）、だれと（そうじの班）、どのくらい（回数）、どのように（そうじの方法）、どうしているか（そうじの重視度と効果）に分けてみていくことにしたい。

## いつそうじをするか(時間帯とそうじを開始する学年)

そうじをする時間帯は図2によれば、圧倒的に給食と午後の授業の間が多くなっている。それぞれの平均時間は、授業開始前12分、給食後19分、午後の授業と授業の間21分、放課後21分となっており、そうじの時間は、20分前後という長さが定着しているように見える。

さらに、そうじを担当させる学年は、1年生のうちに担当させる学校が90%を占め、なかでも38%の学校は、入学したての1年の最

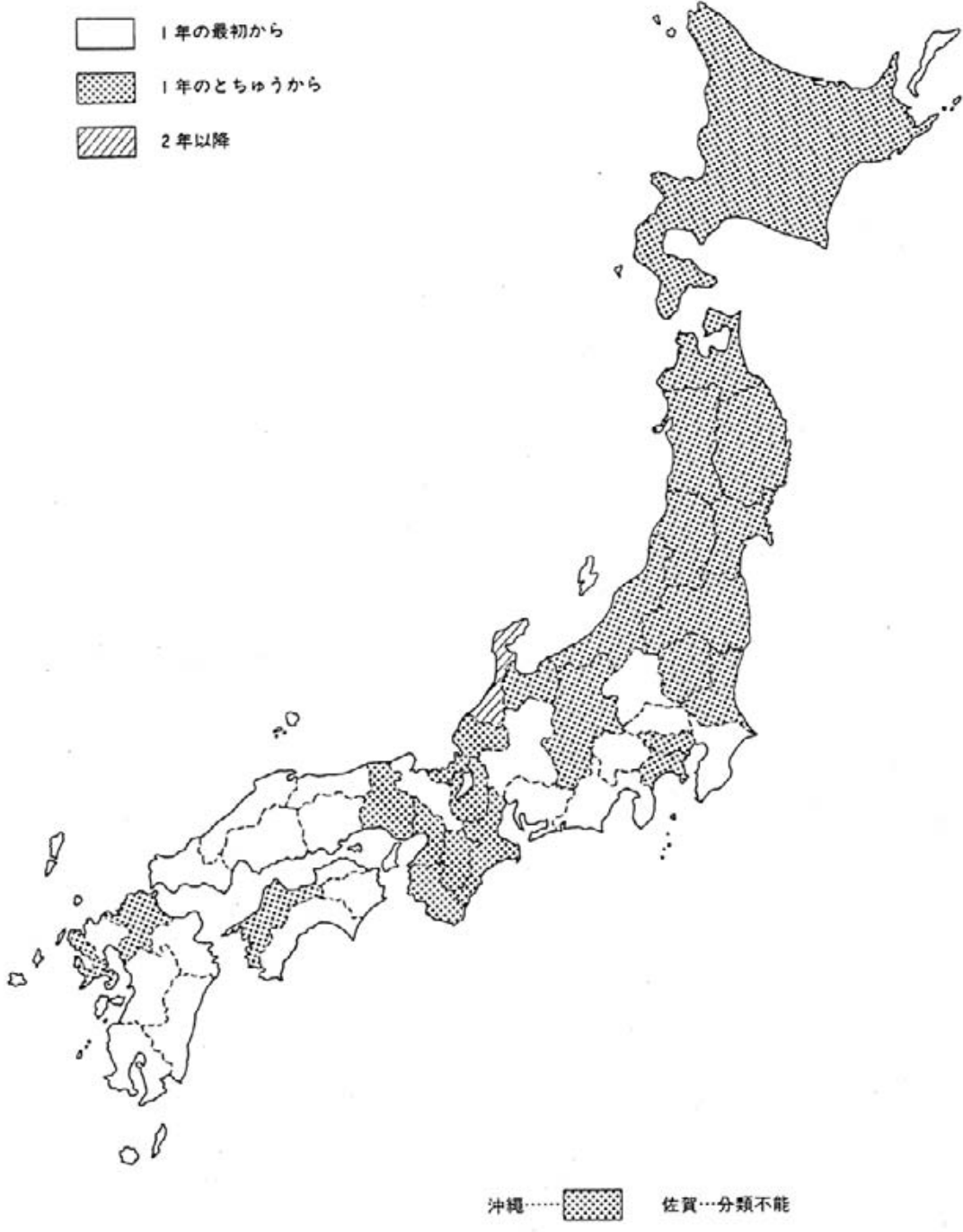
初からそうじを担当させている。地図3は都道府県別地図であるが、1年の最初からそうじを担当させる都道府県は、関東・中部・中国・四国・九州地方に多く、1年のとちゅうから担当させる都道府県は、北海道・東北・近畿地方に多い。これは、地域差というよりも、地図1に紹介したような学校規模との関連が考えられるが、その点はのちにふれることにしたい。

図2・いつ(そうじの時間帯とそうじをはじめる時期)

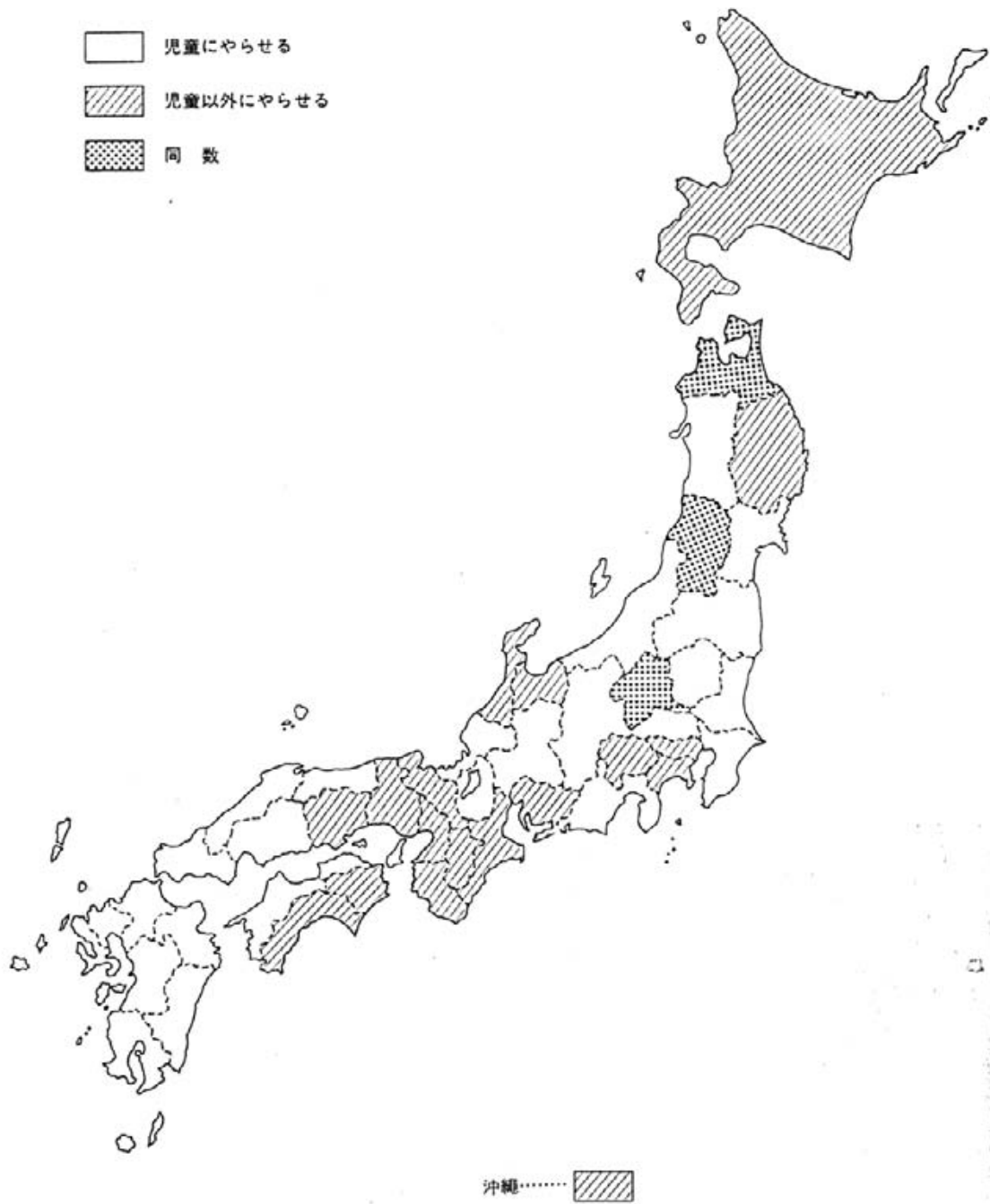




地図3・1年生のそうじ分担



地図5・校長室

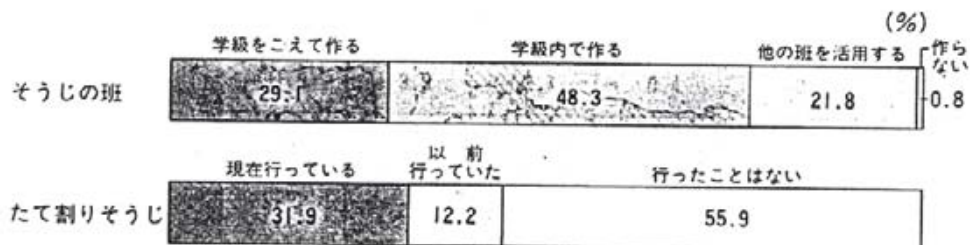


## だれと(そうじの班)

また、図4によれば、そうじをする時の班の作り方として、そうじの時にはそうじの班を作る学校が77%に達する。しかも、自学級の中で班を作る方法(48%)がほぼ半数を占める。それに対し、学級をこえて、あるいは学年をこえて班を作る学校は少なく、いわゆる「たて割りそうじ」を行っている学校は32%と、3分の1程度にとどまっている。そうした中で、12%の学校で「たて割りそうじ」を実施していたのに、その後廃止へふみ切っているのが目につく。やってみたけれども、手間ばかりがかかり、思うような成果があがらなかったのではなかろうか。なお、地図6に「たて割り

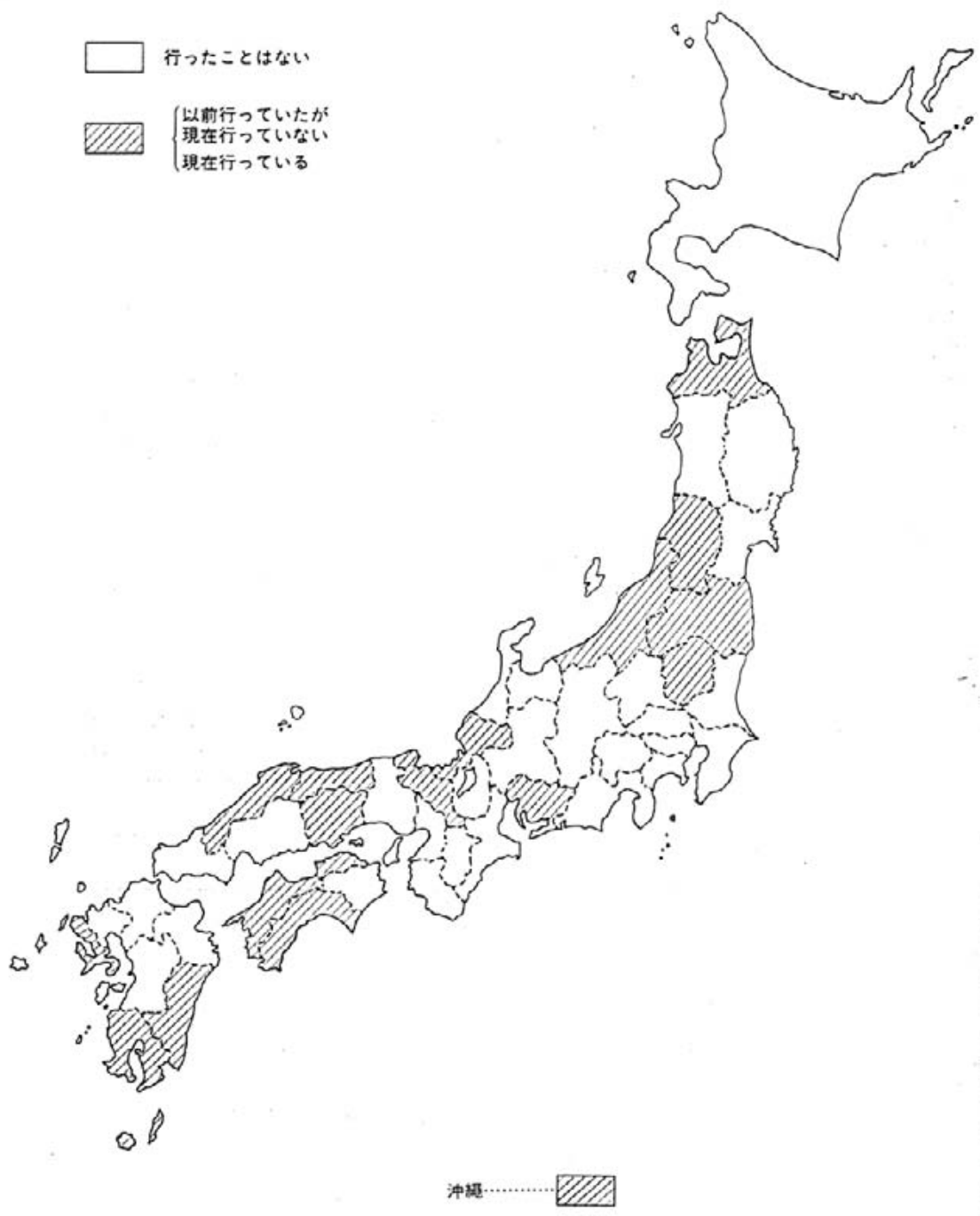
そうじ」を試みている都道府県別地図をのせておいたが、東北・中国・四国地方などに多い。そしてこの地図は、奇妙なことに、地図4で職員室のそうじを子どもにやらせる県とほぼ一致している。つまり、子どもたちのそうじ分担を職員室へ広げることと、「たて割りそうじ」とは、そこに流れる思想が共通しているのであろう。というより、そうじを合理化して子どもたちの分担を教室の周辺に限定する。そうなるるとたて割りの可能性も少なくなるのであろうか。ちなみに、学校規模とのかかわりあいは後述するが、図15をごらんいただくことにしたい。

図4・だれと





地図6・たて割りそうじ



## そうじの回数

表1はそうじの回数をたずねたものであるが、丸印の最大値が示すとおり、普通教室から宿直室にいたるまで、毎日1回のところに回答が集中している。むしろ、毎日そうじをしない場所のほうが少なく、窓ガラスやプールなどに限られている。つまり、子どもたちは、プ

ールや窓ガラスなどを除くと、毎日、そうじをしており、そうした意味では、そうじは、好むと好まざるとにかかわらず、時間帯から考えても、学校生活の中で重要な部分を形成していると言えよう。

表1・そうじの回数

場 所	回数 (%)					
	毎日1回	週 2~3回	週に1回	1ヵ月に 1回	1学期に 1回	それ以外
普通教室	97.6	0.7	0.2	0	0	1.5
ろうか・階段	96.7	1.3	0.5	0	0	1.5
玄 関	95.6	2.6	0.3	0	0	1.5
給 食 室	92.7	2.9	1.6	0.1	0.1	2.6
職員室	92.2	4.5	1.5	0	0.1	1.7
特別教室	91.9	3.9	2.1	0.4	0	1.7
保 健 室	91.8	4.3	1.8	0.2	0.1	1.8
体育館・講堂	91.1	2.8	3.5	0.6	0	2.0
校 長 室	88.7	6.8	2.8	0.1	0.1	1.5
子ども用トイレ	80.3	7.2	9.6	1.0	0	1.9
校 庭	66.4	4.0	10.4	10.0	3.4	5.8
クツ箱(ゲタ箱)	56.6	7.4	15.2	9.5	8.3	3.0
教員用トイレ	50.5	21.8	23.7	1.9	0.3	1.8
宿直室	45.9	21.8	19.2	3.8	0.9	8.4
プ ー ル	15.9	4.1	11.6	7.6	9.3	51.5
窓ガラス	9.1	3.4	9.3	21.0	33.8	23.4

○は最大値

## そうじの方法

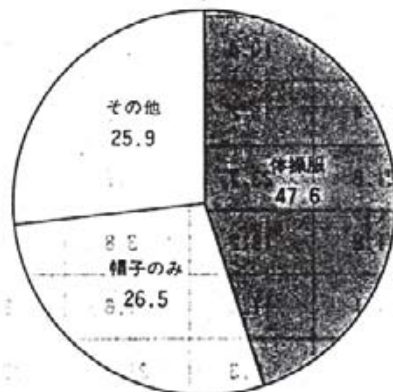
なお、図5によると、床をふくのは主にぞうきんであり(82%)、モップは16%にとどまっている。ゴミはゴミ箱を焼却炉にもっていった中のゴミを燃やす形が8割(77%)に達する。そうじの時の服装は「きまっていない」がやや多い(58%)ものの、きまっている学校も4割を超えるので、ほぼ二分されている印象を受ける。「きまっている」場合は体操服を用いている場合が多い。こうした形を都

道府県別にみても、そうじ時の服装をきめているのは、東北、関東の一部、中部、北陸地方に集中している(地図7)。したがって、東北地方の県には①たて割りの形で②きちんと体操服を着て③職員室を含めてそうじをするという熱心な姿が浮かんでくる。それに反し、東京や近畿などに、そのいずれもしていない県が認められ、学校の中でそうじの重みが少なくなっているような印象を受ける。

図5・そうじの方法



(きまっている場合)





地図7・そうじ時の服装



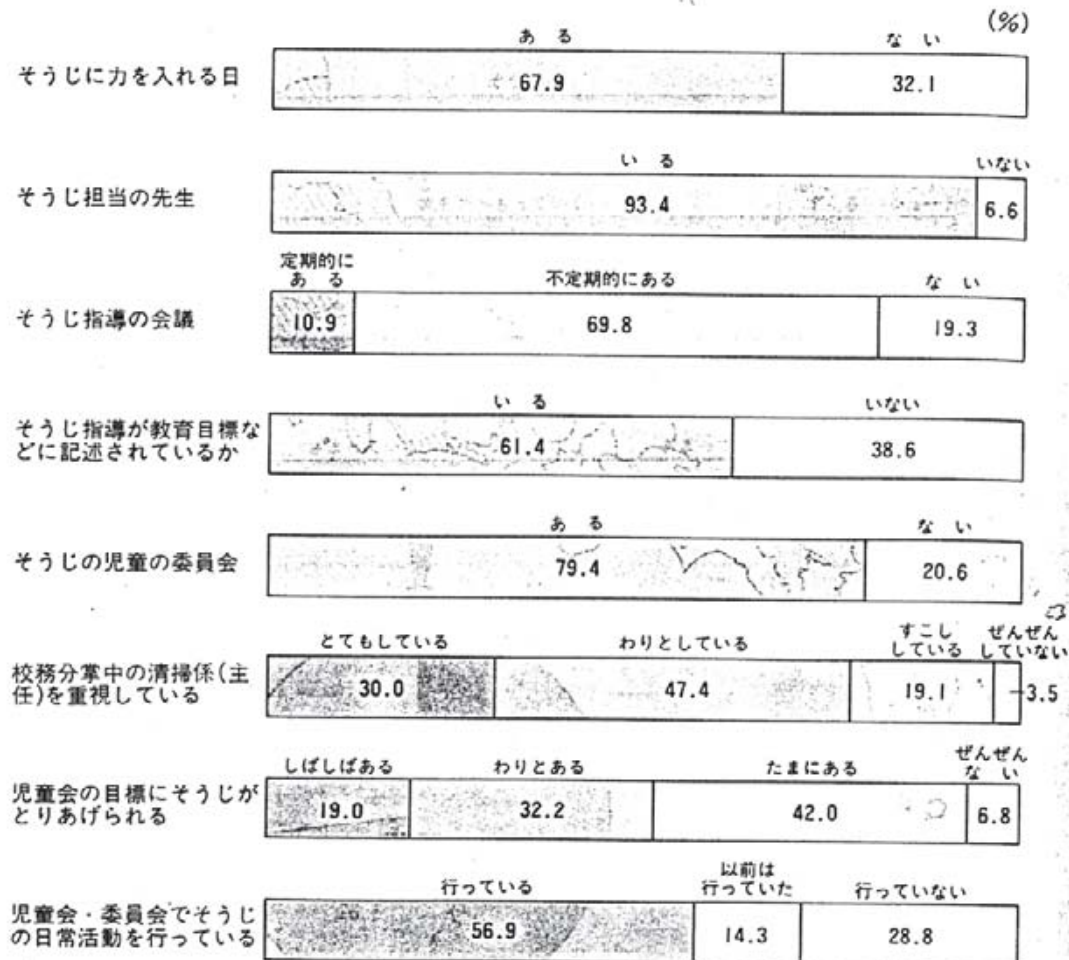
## そうじの重視度と効果

今までふれてきたように、そうじは全校の子どもたちが毎日20分を費やしている活動である。そうした中で、特別にそうじに力を入れる日がきまっている学校は68%にのぼり(図6)、かなりの学校で、そうじを重視していることがわかる。さらに93%の学校では、清掃担当の教師がおり、不定期的ではあるがそうじ指導の会議も存在し、校務分掌中の清掃担

当の係(主任)も見受けられる。さらに児童の委員会活動の中にもそうじに関係した委員会が存在し、児童会や委員会などでそうじの見まわりや後始末の点検などの日常活動を行っている。これらを総合すると、学校は、全体的な制度としてもそうじを重視していると要約することができよう(図6)。

しかも、表2によれば、そうじには教育的

図6・そうじについての組織



意義がとてもあり(79%)、そうじの指導は学校ですべきであると「とても・わりと」思っている学校は88%と、ほぼ9割に達している。

そうした形でそうじを重視しているといっても、子どもたちがそうじをよくしているかといえば、「とてもよくしている」のは17%の学校だけで、「わりとしている」のが75%を占める。また、そうじの時のおしゃべりも、「とても・わりと」しているを合わせると41%となり、「少ししている」は56%となる。そして「ぜんぜんしていない」3%である。したがって、おしゃべりをしながらそうじをしている子どもたちの姿が浮き上がってくるが、これは今も

昔もかわらぬ子どもたちのありさまであろう。

このように、そうじを重視しているし、学校全体として取り組んでいる。そして、おしゃべりをしている子がいるといっても、そうじを「わりとしているように思う」が、そうじについての全体としての評価であった。

しかしそうじは、全校の児童数が200名以下の学校か、それとも千名を超えるような大規模校かによって、実際の姿がかわってこよう。そこで、以下、学校の規模によって、そうじのありさまがどうなるのかについてふれることにしたい。

表2・そうじについての評価

そうじの教育的意義	(%)
1. とてもある	78.8
2. わりとある	19.5
3. すこしある	1.7
4. ぜんぜんない	0

そうじの指導は学校ですべきか	(%)
1. とてもそう思う	42.7
2. わりとそう思う	45.4
3. すこしそう思う	10.9
4. ぜんぜんそう思わない	1.0

88.1

そうじをよくしているか	(%)
1. とてもよくしている	17.0
2. わりとしている	74.8
3. すこししている	8.1
4. ぜんぜんしていない	0.1

そうじの時のおしゃべり	(%)
1. とてもよくしている	2.8
2. わりとしている	38.4
3. すこししている	56.1
4. ぜんぜんしていない	2.7



### 3. 学校規模とのかかわり



#### 大規模校では

まず、学校規模の分類にあたっては、地図1でもふれたように、全校で25学級以上ある学校を大規模校、24学級から13学級を中規模校、12学級から7学級を小規模校、6学級以下を単・複式学級校と4つのカテゴリーに分けることにした(表3)。

図7は学校規模別にみた「そうじ用具」の数の平均値を示している。図からもわかるとおり、大規模校ほど教室に備えてある「そうじ用具」の数は多くなる傾向が見受けられる。大規模校ほど1学級の人数も多く、このために必要になる「そうじ用具」の数も多いと考えられるが、大規模校は大規模校なりに、「そうじ用具」の充実をはかっているのかもしれない。

そこで、そうじ活動をどのくらい重視しているのかという観点で、学校規模による差は存

在するかどうかをたしかめたものが、図8から図11である(全国的にみたのが地図8・9である)。

まず、図8は「特別にそうじに力を入れてやる日がきまっている」かどうかをたずねた結果を示している。大規模校では、74%もの学校で、特別の日が「ある」と答えているのに対し、小規模校では68%、単・複式学級校では57%にとどまっている。この数値からすると、大規模校のほうがそうじを重視しているようにも考えられる。

しかし、そうじを重視しているかどうかは、他のいくつかの側面からとらえることが必要であろう。つぎの図9は、「校務分掌中のそうじに関する教師の係(主任)を重視している」と答えた割合を示している。これによると、やはり、大規模校ではとても重視している割合

が41%なのに対して、中規模校、小規模校になるにつれて低下し、単・複式学級校ではほぼ半分の21%になっている。

さらに、図10の「定期的な会議がある」、図11の「児童の委員会がある」をみても、やはり大規模校ほど高い数値を示している。

表3・学校規模

大規模校	25学級以上 (学年4学級以上)
中規模校	13～24学級 (学年2～4学級)
小規模校	7～12学級 (学年1～2学級)
単・複式学級校	6学級以下 (学年1学級以下)

図7・学校規模×教室に備えてある「そうじ用具」の数(平均値)

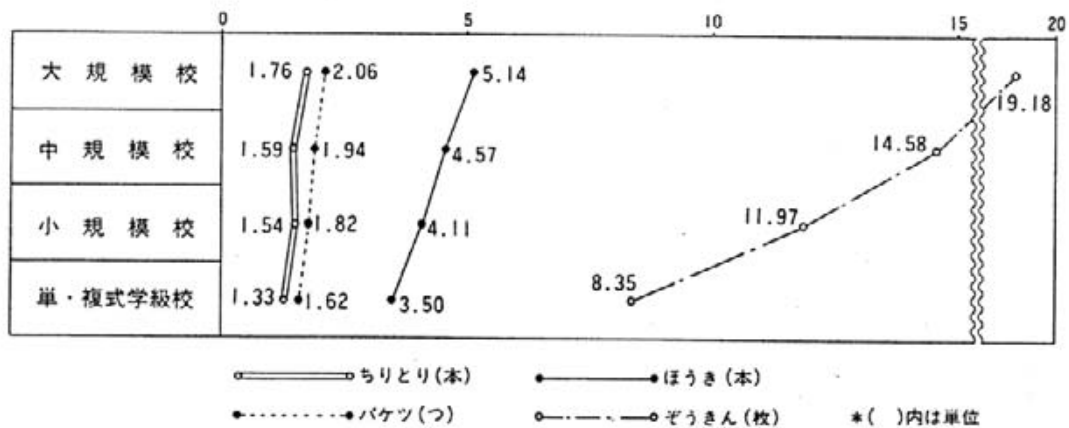
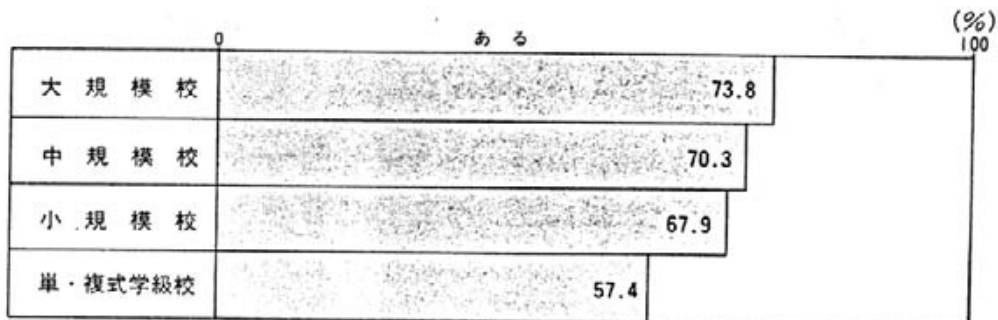
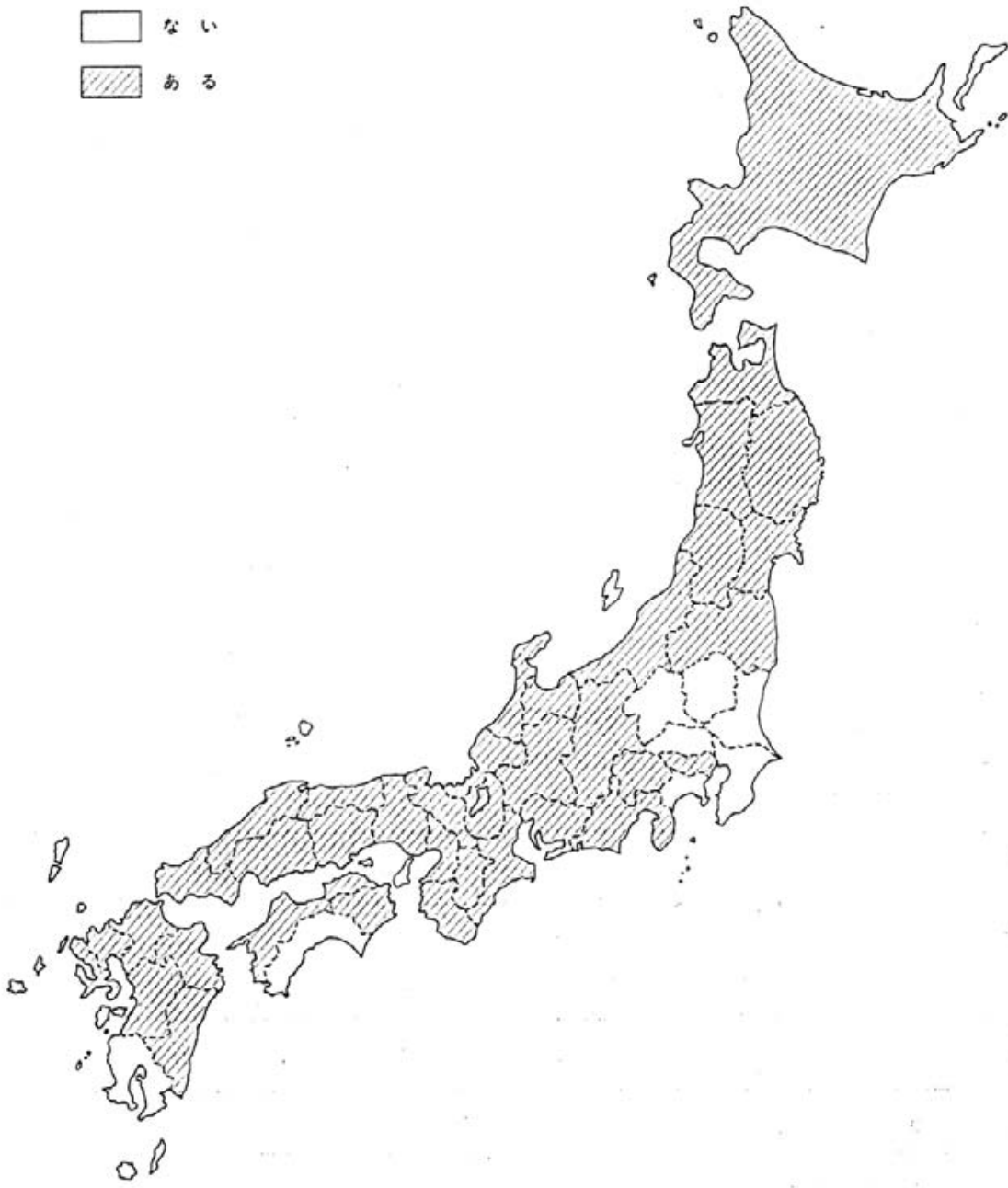


図8・学校規模×特別にそうじに力を入れる日がある





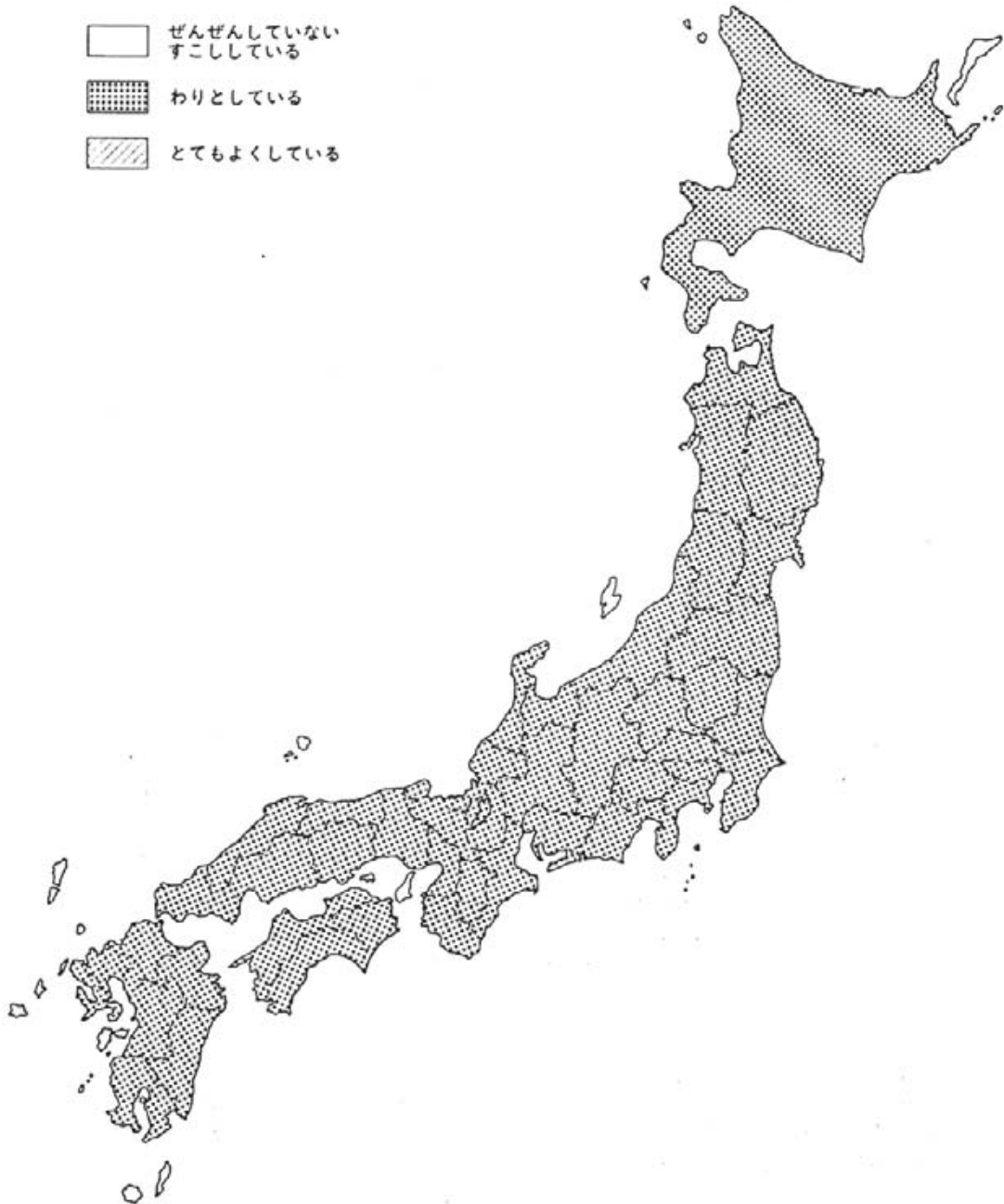
地図8・そうじに力を入れる日

□ ない  
▨ ある



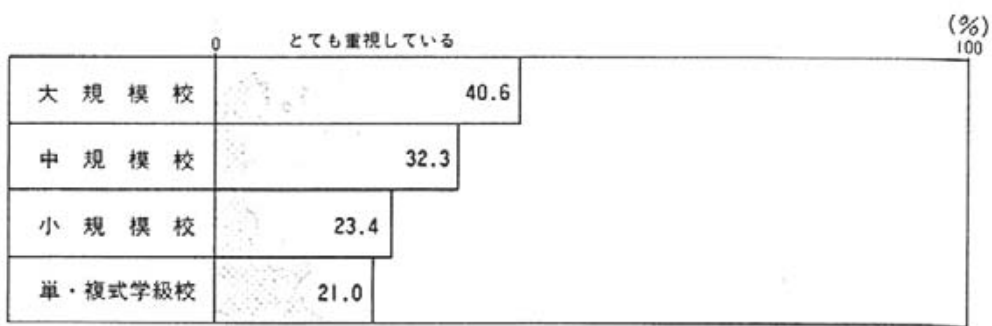
地図9・そうじの実態(よくしているか)

-  ぜんぜんしていない  
すこししている
-  わりとしている
-  とてもよくしている

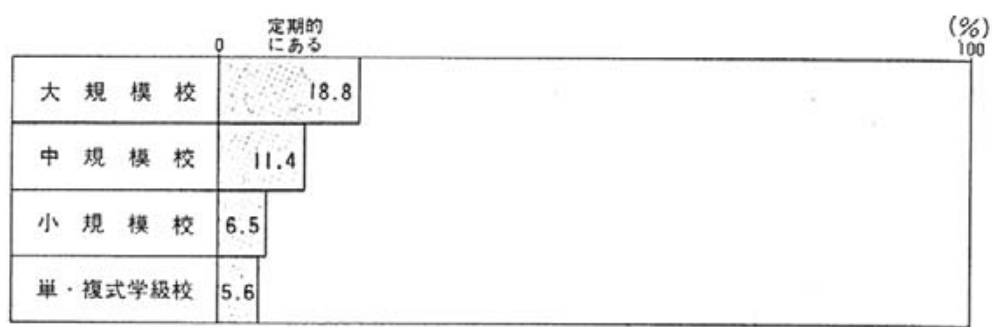




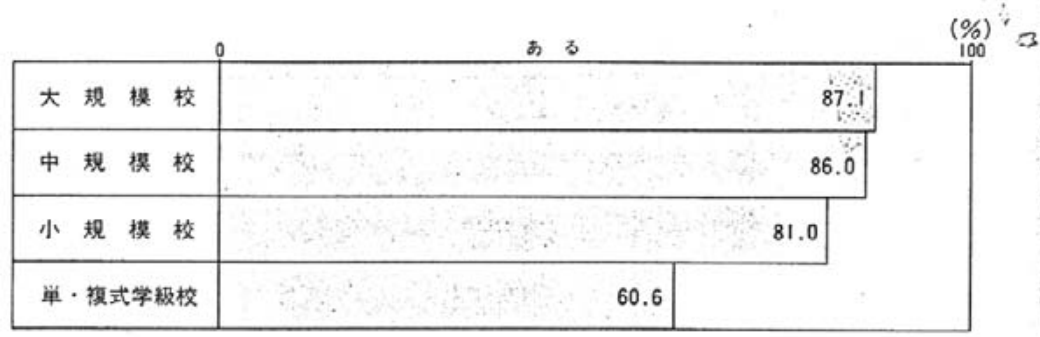
**図9・学校規模×清掃主任を重視している**



**図10・学校規模×そうじに関する定期的な会議がある**



**図11・学校規模×そうじに関する児童の委員会がある**



## そうじの効果

このように、大規模校ほどそうじを重視しているように見受けられるが、それならば子どもたちは大規模校ほどそうじをよくしており、効果があがっているのであろうか。

この疑問に答えてくれるのが図12から図14までの結果である。図12は「子どもたちは、そうじをととてもよくしている」と答えた割合を学校規模別にみたものである。そうじをよくし

ている割合がもっとも低いのが中規模校の9%で、つぎに大規模校15%、小規模校17%、単・複式学級校31%となっている。大規模校は、そうじを重視しているわりに、効果があまりないような印象を受ける。図13の、そうじ中におしゃべりを「とても・わりとしている」と答えた割合は、中規模校、大規模校、小規模校、単・複式学級校の順に少なくなってい

図12・学校規模×そうじをととてもよくしている

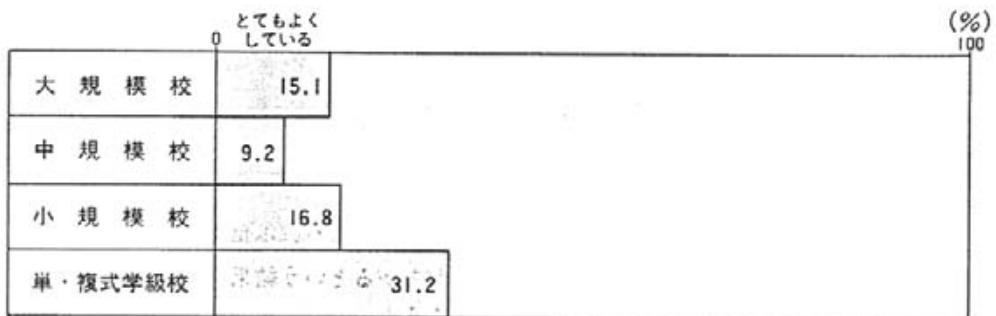


図13・学校規模×そうじ中おしゃべりをしている

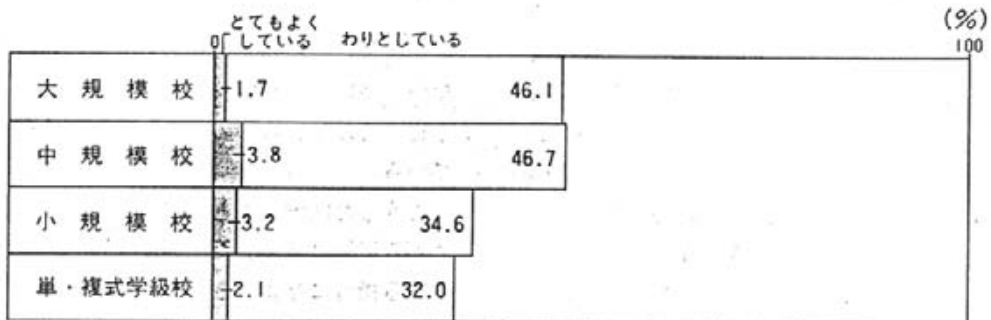


図14・学校規模×そうじが好き

	とても好き		%
	0	100	
大規模校	1.7	26.7	
中規模校	0.3	21.3	
小規模校	1.6	32.4	
単・複式学級校	1.7	37.6	

る。

同様に、「子どもたちはそうじが好き」だと「とても・わりと思う」割合を図14に示しておいた。この図でも、中規模校が落ちこんでおり、大規模校、小規模校、単・複式学級

校の順に「そうじが好き」の割合が高くなっているのがわかる。児童1人当たりのそうじ場所の広さと分担回数などの点で、中規模校の児童は負担が大きいためであるのかもしれない。

## 小規模校では

大規模校ほどそうじを重視しているにもかかわらず、その効果がうすく、逆に、小規模校はそうじを重視しているとはいえないのに効果があがっているのはなぜか。この疑問に対する答えが次の図15・16の中に隠されている。

図15は他の学年にまたがってそうじの班を作るという、いわゆる「たて割りそうじ」を現在行っていると答えた学校の割合を示している。この図からもわかるとおり、大規模校での実施率はわずか11%に対して、中規模校23%、小規模校39%、単・複式学級校60%と、きわだった対照を示している。なお、小規模校ほど、自分たちの普通教室以外の場所のそうじの主な担い手となる5、6年生の数が少なく、また、教師の数も少ないために、5、6年生をそうじのリーダーとする「たて割りそうじ」の必要性が生じてくると考えられる。

こうして必然的に「たて割りそうじ」を行

わざるを得ない小規模校ほど、そうじの効果があがるという結果をもたらしているであろう。

もうひとつの答えは図16にみとめられる。この図は「教師のそうじの見まわり」を「とてもよくしている」と答えた学校の割合である。やはり、大規模校ほど数値が低く、小規模校ほど数値が高くなっている。

大規模校は、「たて割りそうじ」を行っておらず、教師の見まわりもあまり行われていない。逆に、小規模校は、「たて割りそうじ」を行っており、教師の見まわりもよく行われている。

こうした状況をまとめて言うならば、教師による指導にせよ、「たて割りそうじ」の上級生による指導にせよ、きめ細かく直接的なそうじの指導が、そうじの効果という点では必要になってくるのであろう。

もっとも、スクールサイズと教育実践に

からむこうした問題は、そうじに限らないのかもしれない。適正規模という言葉のとおり、ある程度の規模以下の学校では、特別にきまりをきめ、組織だって取り組まなくとも、おたがいをよく知っているので、自然の形でそうじの効果をあげることができる。換言するなら、うまくいっているので、ことさらあらたまったきまりをつくらなくてもよい。

それに対し、大規模校では、そのままでは何も始まらないので、まず、きまりをつくり、制度化した形でそうじに取り組む。しかし、

制度化しても、徹底しない部分が生ずるので、会議などで善後策を検討する。その結果、そうじをめぐる、活発にいろいろな検討が試みられているようにみえても、実際問題として、それほど効果があがっていない事態が生じてくる。

そう考えてくると、そうじに限らず、教育活動を行うためには、小規模校が良いかはともあれ、ある程度、学校のサイズを小さめにするのが望まれよう。

図15・学校規模×「たて割りそうじ」をしている

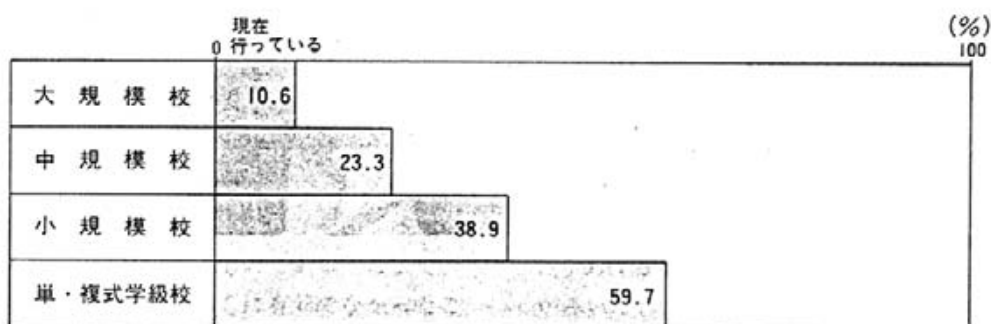
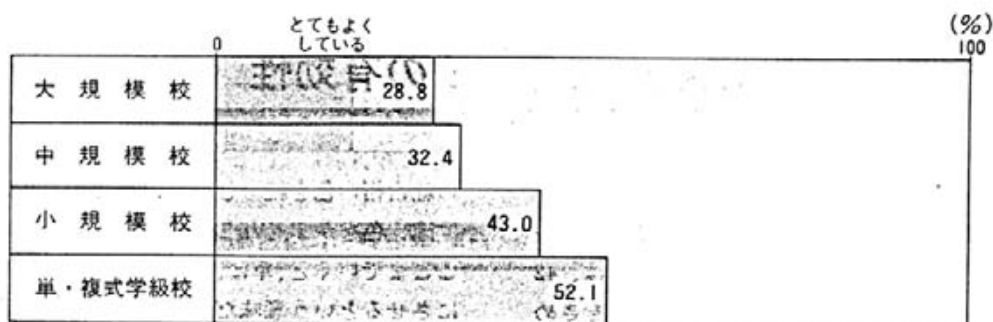


図16・学校規模×先生方がそうじの見まわりをしている





## 4. より有効なそうじ指導法をさぐる



学校規模に着目すると、大規模校より小規模校のほうがそうじをよくやっていることが、今までの分析を通して明らかになった。しかし、だからといってすべての学校を今すぐ小規模校にするわけにもいきまい。すべての学

校が、現在の状況の中でそうじ指導の効果をあげていかなければならないが、それならば、どうすれば効果があがるのだろうか。ここでは、より有効なそうじ指導の方法を、データからさぐってみることにする。

### 現在の指導方法の有効性

現在多く行われているそうじ指導に、そうじの時間に紅白帽をかぶせたり、体操服を着せたりする方法がある（前出の図5では、42%の学校が「そうじをするときの服装をきめている」と答えている）。ほこりをかぶったり汚れたりしても心配がないし、動きやすいので、そうじをよくするようになるだろうという考えから、この指導が行われているように考えられる。しかし、学校によっては、全校

の紅白帽の色を統一してかぶせたり、班長だけ違う色をかぶせたりしているところもある。ここまですると、単に、そうじをしやすい服装にさせるという意味だけではないように思われる。

さて、この指導方法が実際に有効なのか、たしかめたのが図17である。図17は、そうじの服装をきめている学校とそうでない学校では、そうじをとともよくしていると答えた割合に違

いがあるかどうか調べたものである。一見してわかるように、違いは認められない。つまり、そうじの服装をきめたからといって、子どもたちはそうじをするようにはならないのである。

つぎに、やはり多く行われているそうじ指導に、特別にそうじに力を入れる日をきめてするという方法がある（前出の図6では、68%の学校が「特別にそうじに力を入れてやる日がきまっている」と答えた）。

図17と同じように、この指導方法の有効性をたしかめたものが図18である。やはりこの場合も、特別にそうじに力を入れてやる日がある学校とない学校とでは、そうじをととてもよくしていると答えた割合にまったく違いがみられない。特別にそうじに力を入れてやる日をきめても、子どもたちは、そうじをするようにはならないのである。

これら2つのそうじ指導方法は、「服装をきめる」「力を入れる日をきめる」といったように、一種の全校的なきまりをつくってそうじをさせようとするものである。ここで、どちらの指導方法もともに有効でなかったことから、「きまり」でしばってそうじをやらせ

ようとする指導方法はあまり有効性がないというような結論をひき出しえよう。

それでは、違った面から、そうじの指導方法の有効性をさぐってみることにしよう。

児童会・委員会活動にそうじをとりあげることで、意欲的にそうじに取り組みせようとする試みもよく見受けられる。とりわけ、よく行われる方法として、児童会でそうじに関係する目標をとりあげたり、委員会でそうじの見まわりをしたりする方法がある（前出の図6では、51%の学校が、児童会でそうじの目標をたてることが、「しばしば・わりとある」と答えている。また、図6で「委員会でそうじの日常活動をしたことがない」と答えている学校は、29%しかない）。

図19は、児童会・委員会活動でそうじをとりあげることの有効性をみたものである。「児童会でそうじの目標をたてる」と「委員会でそうじを見まわる」の両方の図において、意味のある差はみられない。この結果を手がかりにすると、児童会や委員会活動にそうじをとりあげることには、はっきりとした有効性がみだしにくいように考えられる。

図17・そうじの服装をきめる×そうじをととてもよくしている

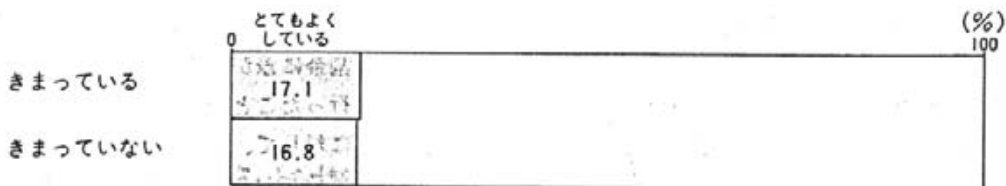
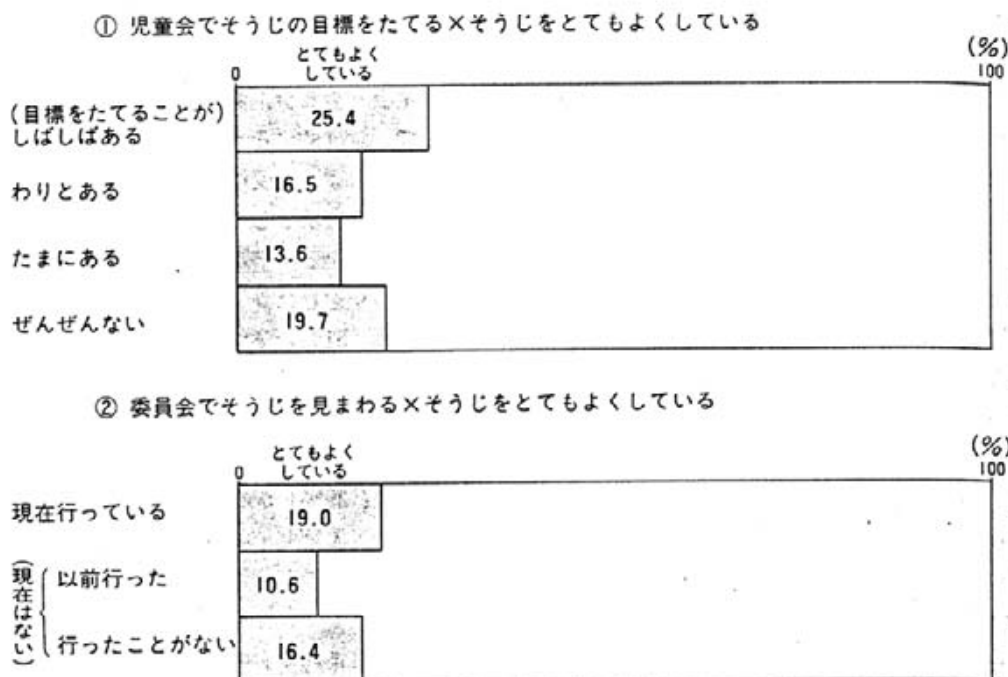


図18・特別にそうじに力を入れる日がある×そうじをととてもよくしている



図19・児童会・委員会活動の有効性



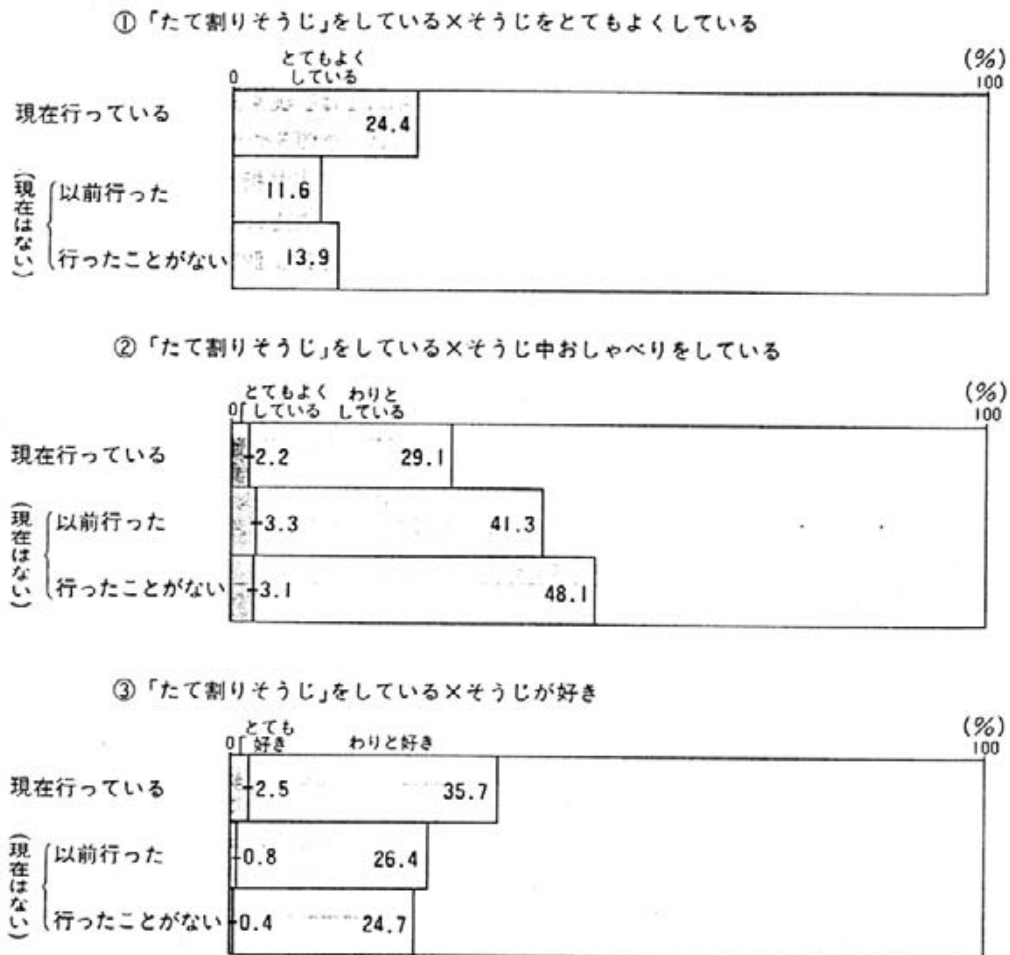
## 有効な「たて割りそうじ」

きまりもだめ、児童会・委員会活動もだめとなると、有効なそうじ指導の方法とはいったい何だろうか。この問題を解く鍵は、前章でとりあげた小規模校の中にありそうにみえる。大規模校よりも小規模校のほうに、「たて割りそうじ」をしている学校が多いことはすでにのべた。では、「たて割りそうじ」が、そうじ指導の方法としてどれだけ有効性をもつか、さぐってみることにしよう。

図20は、「たて割りそうじ」を現在行っている学校と以前していたが今はやめた学校、そしてたて割りをしたことがない学校との間で、3つの点において差があるかどうかみたものである。①はそうじをととてもよくしていると答えた割合に差があるかどうかみたものである。現在行っている学校24%、以前行った学校12%、行ったことがない学校14%と、明らかに、「たて割りそうじ」を現在行って

いる学校のほうが、高い数値を示している。このことは、「たて割りそうじ」を行っている学校のほうに、そうじをととてもよくやっている学校が多いということの意味している。②はそうじ中に子どもたちのおしゃべりが多いと答えた割合に差があるかどうかみたものである。「行ったことがない」と答えている学校の51%に対して、「現在行っている」と答えている学校では20%ほど少ない31%である。「たて割りそうじ」をしている学校のほうが、そうじ中のおしゃべりが少ないということがわかる。③はそうじが好きな子どもが多いと答えた割合に差があるかどうかみたものである。この図でも、「たて割りそうじ」を現在行っている学校は、していない学校より10%以上も高い38%という数値を示した。「たて割りそうじ」をすることで、子どもたちは、そうじを好きにもなるようである。

図20・「たて割りそうじ」の有効性



「たて割りそうじ」は、学年を越えた子どもたちのコミュニケーションをつくる方法として考案されたものであるが、これらのデー

タをみると、そうじをさせるための方法としても、かなり有効であることがわかる。

## そうじ指導のきめ手は教師の熱心さ

「たて割りそうじ」以外に、大規模校よりも小規模校のほうが高い数値を示したものに、先生の見まわりがあった。先生がそうじの見まわりをすることにも、「たて割りそうじ」のようにそうじの指導方法としての有効性があるのだろうか、さぐってみた(図21)。

図21は図20と同様に、①そうじをよくして

いるか、②そうじ中におしゃべりをしているか、③そうじは好きか、という3つの点に差があるかどうかみたものである。①をみてみると、先生がそうじの見まわりをととてもよくしている学校では、そうじをととてもよくする割合が31%であるのに対して、見まわりを「すこししている・ぜんぜんしていない」学校では、



わずか5%となる。先生が見まわりをしている学校のほうが、そうじをととてもよくしていることが明らかであろう。②と③の図からも、先生が見まわりをしている学校のほうが、そうじ中のおしゃべりは少ないし、そうじを好きになることが容易に読みとれよう。

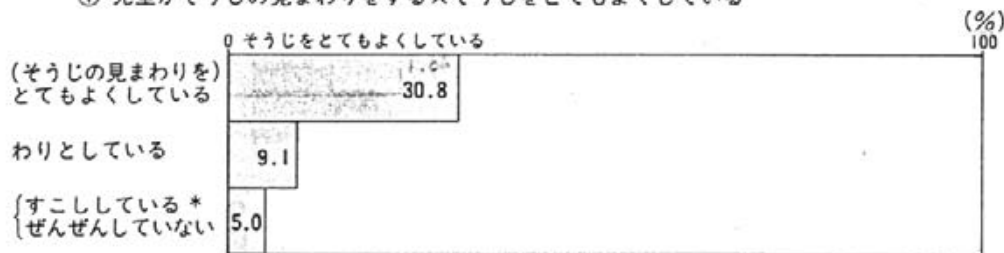
したがって、データが示すように、先生がそうじの見まわりをすることは、有効なそうじの指導方法だと考えられる。

もっとも、先生がそうじの見まわりをするということは、先生がそうじ指導に熱心であ

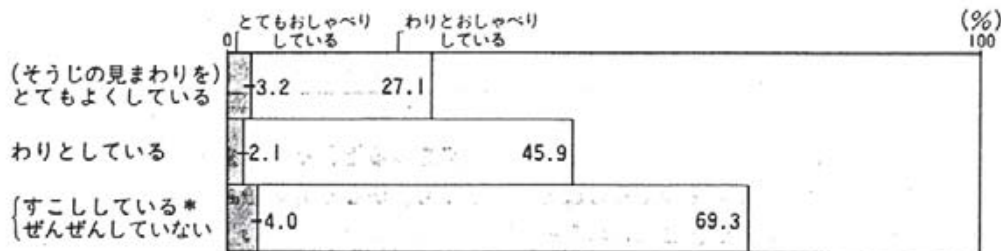
ることのひとつの現れとみることができよう。そこで、そうじ指導の熱心さに関係がある5つの項目を選びだして、調べてみることにした。なお、そうじ指導の熱心さに関係がある5つの項目とは、表4の(1)~(5)の項目である。ここでは、この5つの項目の加算点スケールを求めて、「そうじ指導の熱心さ」の有効性をさぐってみることにする。ここで用いる加算点スケールとは、個々の項目について、その有効性をさぐるものではない。5つの項目全部に対する解答のしかたによって、全部の学

図21・先生がそうじの見まわりをするものの有効性

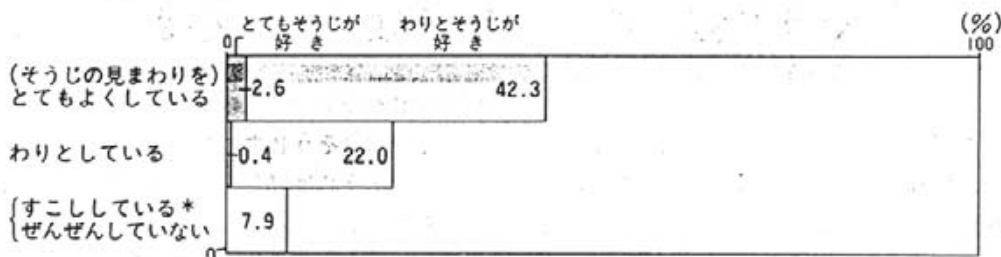
① 先生がそうじの見まわりをする×そうじをととてもよくしている



② 先生がそうじの見まわりをする×そうじ中おしゃべりをしている



③ 先生がそうじの見まわりをする×そうじが好き



\*「そうじ」の見まわりを「ぜんぜんしていない」と答えた数値(3校)が極端に少ないので、統計的に考えて「すこししている」と答えた数値(170校)と一緒にした。

校を3つのグループに分け、そのグループ間に差があるか調べようというものである(加算点スケールの詳しい算出方法については、表4を参照してほしい)。

加算点スケールによって分類された3つのグループは、合計点の少なかった「そうじ指導の熱心な学校」、合計点が中間の「普通の学校」、合計点が多かった「不熱心な学校」の3つである。ここで、この3つのグループ間の差をみることは、とりもなおさず、「そうじ指導の熱心さ」が「子どもたちのそうじに対

する取り組み方」に影響を及ぼしているのかどうかをみることになる。

図22は、その結果を表したものである。①は、「そうじ指導の熱心な学校」から「不熱心な学校」までの3つのグループにおいて、そうじをととてもよくすると答えた割合に差があるかどうかみたものである。そうじをととてもよくしていると答えた割合は、「熱心な学校」では27%であるのに対して、「不熱心な学校」では、約3分の1の8%である。明らかに、「熱心な学校」のほうが、そうじをととてもよ

表4・そうじ指導の熱心さ(加算点スケールの算出方法)

	とてもよく している (ある)	わりと している (ある)	すこし している (ある)	ぜんぜん していない (ない)
(1) 先生方は、「そうじ」の時間、クラスの「そうじ場所」を見まわりますか。	1	2	3	4
(2) 先生方は、「ほうきのはき方」「ぞうきんのしぼり方」など、そうじの仕方を子どもたちに教えていますか。	1	2	3	4
(3) 職員会議などで、「そうじ」が議題に取りあげられることがありますか。	1	2	3	4
(4) 「そうじ」のことが、先生方の日ごろの話題にのぼることがありますか。	1	2	3	4
(5) 校務分掌中の「そうじ」に関する係(主任)を貴校では重視していますか。	1	2	3	4
	(1点)	(2点)	(3点)	(4点)

\*上記の5つの項目について、「とてもよくしている」から「ぜんぜんしていない」までのスケールに、1点から4点までの得点を与える。5つの項目の合計点が少ないほうから順に、学校を3つのグループに分ける。

グループ名	5つの項目の合計点	全体に占める割合
そうじ指導の熱心な学校	5～9点	36.2%
そうじ指導の普通の学校	10～11点	33.4%
そうじ指導の不熱心な学校	12～20点	30.4%

くしている。

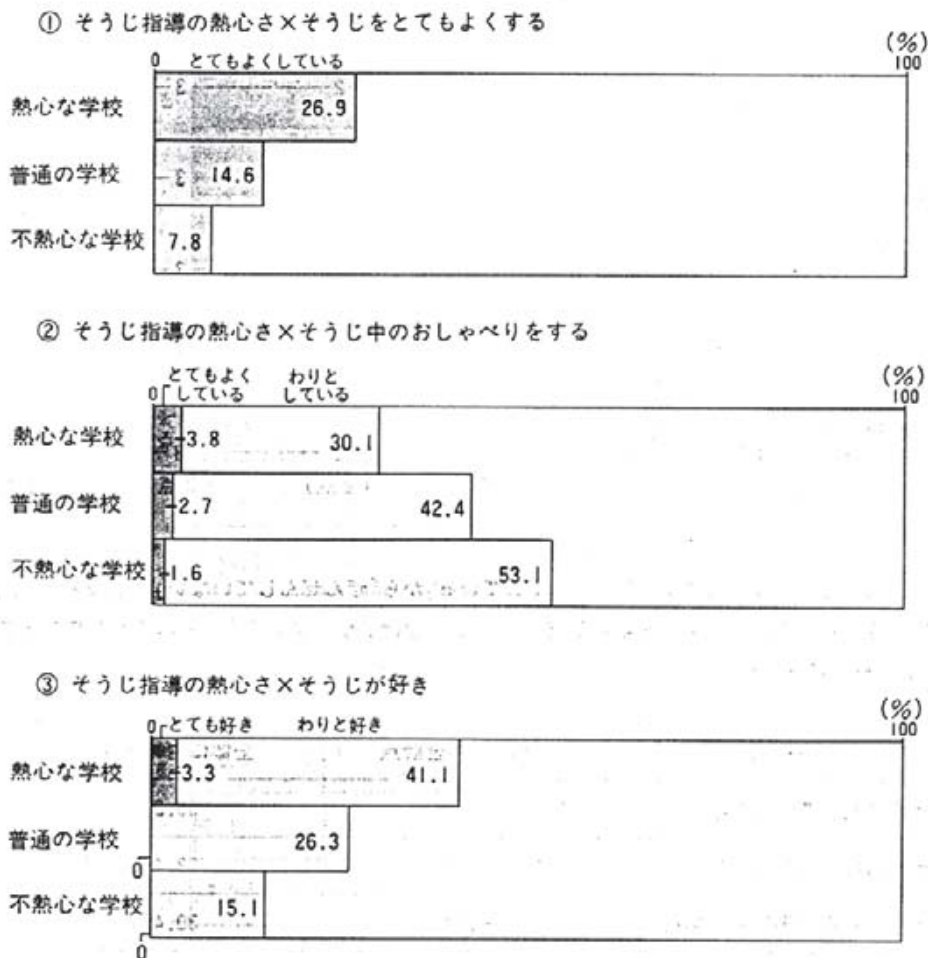
②は、3つのグループにおいて、そうじ中のおしゃべりに差があるかどうかみたものである。おしゃべりをしていると答えた割合は、「熱心な学校」の34%に対して、「不熱心な学校」では55%である。やはり「そうじ指導の熱心な学校」のほうが、そうじ中のおしゃべりも少ないのである。

③は、3つのグループにおいて、子どもたちはそうじを好きだと答えた割合に差があるかどうかみたものである。この図においても、

「熱心な学校」ほど、子どもたちがそうじを好きになっていることが読みとれる。

図22の①～③の図をみると、先生がそうじ指導に熱心な学校ほど、良い結果がでている。子どもたちにそうじをやらせようとするならば、先生がそうじ指導に熱心になることがなによりも大切なようだ。先生がそうじ場所を毎日見まわったり、そうじの仕方をていねいに教えたりとかいう一見ありきりに思える指導こそが、そうじ指導の原点であると同時に、もっとも有効な指導方法なのである。

図22・そうじ指導の熱心さの効果





## まとめに代えて

今までふれてきたように、すべての学校では、子どもたちに毎日20分程度の長さのそうじを担当させていた。したがって、あたりまえのように思えるが、しかし、考えてみると、そうじをさせるのが学校としての教育的な行為といえるのかどうかは、かなりの疑問を感じる。なぜなら、子どもにそうじをさせる行為の発生は、そうじにあてる財源を見いだせないで、子どもたちにそうじを担当させたのであろう。したがって、教育的な配慮というより、経済的な事情が優先した産物が学校でのそうじと考えられる。

そう考えると、そうじを当然のようにさせている学校の姿勢にも問題を感じる。ただし、現在のように、子どもたちの体験不足が問題になってくると、そうじも生活体験を補う手段としての意味をもちうる。そうした意味で、日常生活についての体験を積ませるという角度から、そうじをとらえ直す必要がある。

本レポートによると、教師が熱心に取り組み、「たて割りそうじ」などを試みている学校ほどそうじの効果があがっているように思え

る。しかし、子どもたちが熱心にそうじをするのはよいとしても、なんのためにそうじをさせるのかを、きちんととらえておかないと、子どもたちを便利に使っているのにすぎなくなる。

すでにふれたように、体験の角度から、そうじをとらえるのだとしたら、どうやったらぞうきをうまくしぼれるか、あるいは、ガラスをきれいにふくのにどういう方法がよいのか、そして教室を能率よくそうじするのにどういう手順が望ましいかなどを、学級を単位に考えたりする時があってもよかろう。また、そうじの班づくりなども、もう少し、友だち関係などの広がりの中でとらえ、その班を、学校生活のその他の場面でも活用することがあってもよかろう。

いずれにせよ、そうした形で、生活体験を積ませる機会としてそうじをとらえ、教育活動の中に位置づける必要がある。そのためには、子どもだからそうじをすべきだという発想を捨てるのが前提となるように思われてならない。





るだけでもたいへんな作業になる。

そこで、テレビ番組をあらかじめいくつかのジャンルに分け、それについての好みをきく方法が浮かんでくる。

- ①マンガ ②クイズ ③歌番組  
④ホームドラマ ⑤刑事もの  
⑥スポーツ中継 ⑦時代劇

こうした場合、とりあえず、上記のような7分類程度が予想されるが、その他にも、

- ⑧ニュース ⑨教育テレビ  
⑩ドキュメンタリー ⑪ショー番組

などもあろう。もちろん、ひとくちにマンガといっても、子どもが好むのはさまざまであろうから、「あさりちゃん」「ルパン三世」「Dr. スランプ」「あしたのジョー」のように、具体的な番組名をあげて、それについての好みをたずねたほうが、正確な反応が得られるようにも考えられる。それと同じように、スポーツ中継についても、プロ野球、バレーボール、アイススケート、プロレス、ゴルフと、具体的なスポーツ名をあげれば、さらに反応はシャープなものとなろう。

しかし、そうはいうものの、そうなると、テレビのジャンルが、先にあげた10にとどまらず、20、そして30にも広がってしまう。それでも、テレビの番組名だけをたずねる調査ならまだしも、多くの調査では、その他に、テレビを見ている時の気持ち、テレビの見方、親との関係などを問題にしていくから、番組だけに何十項目も配置できない。

こうした状況は、子どもとテレビに限らず調査一般につきまとう問題で、別の例として、子どもにとっての父親をたずねる場合でも、

「あなたのお父さんは、どんなタイプの人ですか」の問いかけに続いて、

- 1 やさしい 2 ふとっている  
3 おもしろい 4 きびしい  
5 わがまま 6 頼りがいがある  
7 自分勝手 8 あたたかい  
9 尊敬できる 10 おこりっぽい

などが浮かんでくるが、この他にも

- 11 もの知り 12 せっかち  
13 がんばりや 14 きちようめん  
15 やる気がある 16 信頼できる

などを拾いあげると限りがない。

## 回答のさせ方

このように、回答選択肢のつくり方ひとつをとりあげても、さまざまな変化が考えられるが、もう一度、テレビに例をとって具体的な回答の求め方を考えてみよう。かりに、テレビのジャンルを

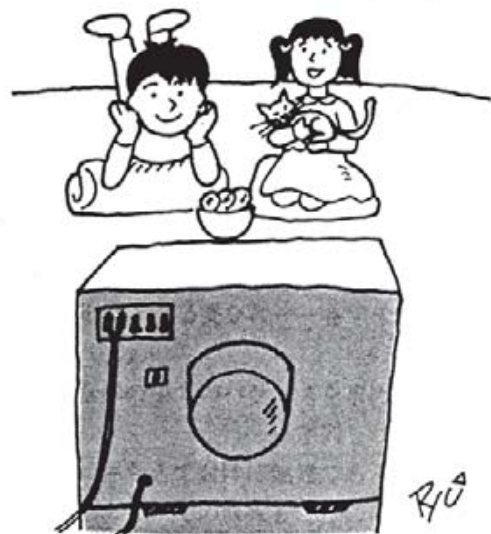
- 1 マンガ 2 クイズ  
3 歌番組 4 ショー番組  
5 スポーツ中継 6 ニュース  
7 ホームドラマ 8 刑事もの

のような8つにしばった場合を考えてみる。

この場合でも、回答の求め方に、以下のようなパターンが予想されよう。

① あなたは、1～8の中でどの番組がいちばん好きですか。いちばん好きなものに○をつけてください。

② (前略)、1～8の中で、好きな番組を2つ選んで○をつけてください。





③ 好きなものから順に1、2、3と、いちばん嫌いなものが8になるように番号をつけてください。

④ 1～8の中で、好きな番組に○をつけてください。○は、ひとつもなくても、たくさんあってもかまいません。

⑤ 1～8の一つひとつについて

- 1 とても好き
- 2 まあ 好き
- 3 あまり好きでない
- 4 ぜんぜん好きでない

の記号で答えてください。

実際に、アンケートを配布して、回答の求め方によって数値がどの程度ことなるのかを調べると、表1のとおりとなる。

この数値に限らず、1～Nのようないくつかの回答例を提示する場合、答えの求め方によって、以下のような傾向が得られることを配慮しておく必要がある。

① N個の中から1つを選ばせる。反応がシャープに出るのを特徴とする。表1でも、マンガの占める割合がもっとも高いのは①の形式である。

② N個の中から、好きに、いくつでも選ばせる。「あてはまるものに○をつけてください。○はひとつもなくても、いくつつけてもかまいません」という形のもので、これは回答者の気持ちが素直な感じであるのを特色とする。したがって、「これから先してみたいもの」あるいは、「おもしろそうだと思うもの」など、意識をたずねるのに適している。そうした反面、①の形だと、カラムが1つですむのに、②ではN個を必要とするのでデータ処理にやや手間どる。あるいは①がシャープすぎるとするなら、この方式は、表1の③のように、反応がややフラット（平板）になるのに留意してほしい。

③ N個一つひとつについて反応を求めるもの。表1の④のように各アイテムについて、「とても好き」～「とても嫌い」のような反



表1・回答の仕方による数値の違い

(%)

回答の 方法 番組の 種類	①		②		③		④	
	順位	1つ選択	順位	2つ選択	順位	好きなものに○を	順位	各設問に 尺度
マンガ	1	48	1	34	1	88	1	42
クイズ	2	28	2	24	2	78	2	38
歌番組	3	8	3	15	3	72	3	32
ショー番組	5	4	6	6	4	64	4	30
スポーツ中継	4	6	4	9	5	56	5	26
ニュース	8	1	8	2	8	14	8	9
ホームドラマ	7	2	7	4	7	34	7	11
刑事もの	6	3	5	7	6	40	6	14

(2項目選んだものを100%に換算) (○をつけたものをそのまま) (とても好きの割合)

応を求めるもので、一つひとつの項目についての反応が正確に得られる。

そうした反面、②と同じように、N個のカラムを必要とするだけでなく、調査票の中でも尺度を用意するので、スペースをとるのが難点となる。

④ N個の中から2つ、あるいは3つ選ばれる。よく見受ける形だが、①のようにシャープな結果が得られるわけでもないし、そうかといって、②～③の場合(表1なら、③～④)のように、正確な反応を期待できるわけでもない。したがって、2つ、あるいは3つあげるのに意味がある場合を除いて、この方式はすすみにくい。

⑤ N個の中から、1位、2位とオーダーをつける場合。これもおもしろい方法だが、序列をつける対象が5～6個の場合が、良い

結果を得られる。表1では比較の都合上、この形をとったが、8アイテムの中で順位をつけようとする、1位、2位はともかく、5～7位のあたりは反応があいまいになる。

こう考えてくると、N個の対象の中から回答を求める場合、

- 1 シャープさを求めたいなら——1個選択(①)
- 2 自然さを求めたいなら——好きなだけ(②)
- 3 正確さが必要ななら——各アイテムに尺度(③)
- 4 全体の中でのバランスを求める時——序列をつける(⑤)

のように押しえておけば無難であろう。また、その対象についての情報を、どの程度こまかく知りたいかによって、



- 1 概要でよい——1個選択 (①)
  - 2 ややくわしく——好きなだけ (②)
  - 3 正確に——各アイテムに尺度 (③)
  - 4 より正確に——各アイテムを尺度 (③)
- 化した後に、「いちばん好きなものは」という形で、1個選択を加える

のステップを考えておくのも、ひとつの見方になる。

## 尺度のとり方

今までふれてきたように、正確な反応を求めたい時に、尺度を利用することが多い。もっとも、初心者の作った調査票で、

「あなたは、マンガが好きですか

- ① はい
- ② いいえ
- ③ なんともいえない

などを見かける。しかし、マンガの好き嫌いといっても、きちんと二分されるものではなく、実際には、「とても好き」から「かなり好き」、そして「やや好き」のような分布を示すものなのであろう。

したがって、サンプルの反応をシャープに弁別する目的で好きか嫌いかを強制的に分類する場合を除くと、「はい、いいえ」といった強制分類の形は望ましくない。

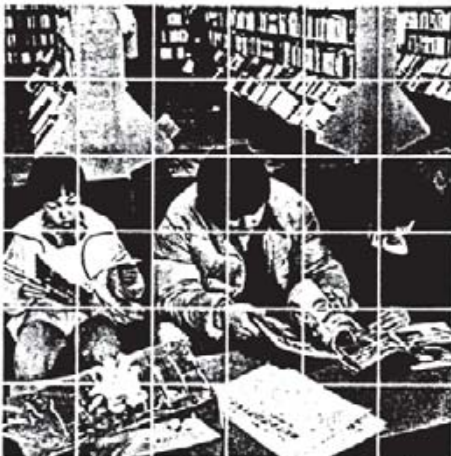
ちなみに、小学5～6年生の場合、このマンガについての反応は、尺度によって、以下のような数値を示した。

- ① 2分類 マンガが好きか
 

好き	89%	嫌い	11%
----	-----	----	-----
- ② 3分類
 

好き	68%	ふつう	26%	嫌い	6%
----	-----	-----	-----	----	----
- ③ 5分類
 

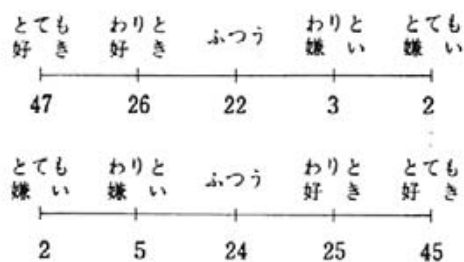
とても好き	45%	} 70%
わりと好き	25%	
ふつうくらい	24%	} 7%
わりと嫌い	5%	
とても嫌い	2%	





したがって、尺度が多くなるにつれて、反応が分散するので、数値のちらばりが増す。換言するなら、2分類だと、やや誇張した形の数値が得られると答えられる。

なお、同じ5段階の尺度を使用した時でも



のとおりで、全体としてみると、左側の数値が高くなりやすい。上記の例でも、嫌いの割合が、上の段では5%にとどまっているのに、下の形をとると、7%に増加する。

また、この尺度を横ではなく上下に、「とても好き」から「とても嫌い」まで5つを配置すると、51%、21%、22%、4%、2%と、

この場合は上位に位置した項目に○をつける割合が高まる。

こう考えてみると、調査から得られる数値は、回答のさせ方ひとつを例にとっても、かなりの変化を示すのがわかる。なお、尺度化にあたっては、

- 1 とても(好き) かなり わりと やや
- 2 とても まあ やや
- 3 大(好き) かなり すこし
- 4 好き やや好き

など、いくつかのワーディングが考えられる。

一般的に言って、尺度化したものは、4段階なり、6段階なりに、尺度の間が等間隔のほうが望ましいと考えられる。それだけに、専門的には、適切な尺度化を試みるのはかなりむずかしいと言われている。しかし、とりあえず、いくつかの尺度を用意して、ブリテストの反応を見つつ、尺度を確定する方法が望まれよう。

(単位はパーセント)

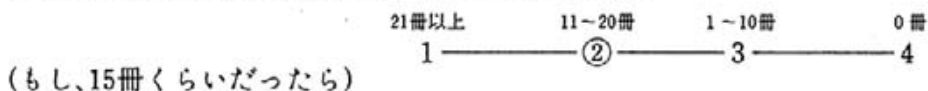
## アンケート調査のお願い

私どもは、全国の子どもたちの生活について調査研究しております。今回、その一環としまして、学校での「そうじ」をテーマとした調査を行ってみようということになり、全国の小学校にお願いしております。調査結果は、コンピューターを用いて数量的に処理しますので、貴校にご迷惑をおかけすることは決してございません。お忙しいところ、誠に申しわけございませんが、ご協力いただければ幸いと存じます。

\* 調査票は二部からなっております。勝手ながら、「そうじ」をテーマとしたこの調査票は **教務主任、あるいは担当の先生** をお願いいたします。

### スケールの答え方

(例) あなたは、月に何冊くらいの本を読みますか。



- ① 貴校では、全体としてみると、平日の「そうじ」はどのような時間帯にどのくらい時間をかけて行われていますか。あてはまる時間に○をつけ、( )の中にその長さを書いてください。

	平均	
1. 授業開始前	(12.03分)	7.6(%)
2. 午前中の授業と授業の間	( 0 分)	0
3. 給食後、午後の授業が始まる前	(18.61分)	77.1
4. 午後の授業と授業の間	(20.78分)	3.8
5. 放課後	(20.74分)	11.5

- ② 貴校では、以下のような場所の「そうじ」を主に誰がしていますか。

	児童	主事さん (用務員さん)	教職員	保護者	業者	行っていない
1. 普通教室	100.0	0	0	0	0	0
2. 理科室や音楽室などの特別教室	99.5	0.3	0.1	0	0	0.1
3. ろうかや階段	98.7	1.3	0	0	0	0

ト)

	児童	主事さん (用務員さん)	教職員	保護者	業者	行って いない
4. 職員室	63.2	34.6	2.1	0	0.1	0
5. 校長室	53.1	43.8	2.8	0	0.1	0.2
6. 給食室	25.2	51.2	20.2	0.1	1.2	2.1
7. 玄関	81.8	17.7	0.5	0	0	0
8. 校庭	93.3	4.6	0.2	0.1	0.1	1.7
9. プール	79.0	2.4	6.7	1.9	2.8	7.2
10. 体育館・講堂	98.7	0.9	0.1	0.1	0	0.2
11. 宿直室(休けい室)	6.7	73.6	14.9	0	0	4.8
12. 保健室	87.6	2.8	9.3	0.1	0	0.2
13. クツ箱(ゲタ箱)の中	94.2	3.4	0.9	0.1	0.1	1.3
14. トイレ(子ども)	78.6	17.5	0.4	0	3.5	0
15. 教員用のトイレ	25.5	54.8	14.5	0.1	5.0	0.1
16. 窓ガラス	60.3	3.8	4.3	12.9	14.2	4.5

## ③ それでは1～16のそうじを毎日しているのですか。

	毎日 1回	週に 2～3回	週に 1回	1ヵ月に 1度	1学期に 1度	それ 以外
1. 普通教室	97.6	0.7	0.2	0	0	1.5
2. 理科室や音楽室などの特別教室	91.9	3.9	2.1	0.4	0	1.7
3. ろうかや階段	96.7	1.3	0.5	0	0	1.5
4. 職員室	92.2	4.5	1.5	0	0.1	1.7
5. 校長室	88.7	6.8	2.8	0.1	0.1	1.5
6. 給食室	92.7	2.9	1.6	0.1	0.1	2.6
7. 玄関	95.6	2.6	0.3	0	0	1.5
8. 校庭	66.4	4.0	10.4	10.0	3.4	5.8
9. プール	15.9	4.1	11.6	7.6	9.3	51.5
10. 体育館・講堂	91.1	2.8	3.5	0.6	0	2.0



●資料 調査票見本および集計表

	毎日 1回	週に 2~3回	週に 1回	1ヵ月に 1度	1学期に 1度	それ 以外
11. 宿直室(休けい室).....	45.9	21.8	19.2	3.8	0.9	8.4
12. 保健室.....	91.8	4.3	1.8	0.2	0.1	1.8
13. ツツ箱(ゲタ箱)の中.....	56.6	7.4	15.2	9.5	8.3	3.0
14. トイレ(子ども).....	80.3	7.2	9.6	1.0	0	1.9
15. 教員用のトイレ.....	50.5	21.8	23.7	1.9	0.3	1.8
16. 窓ガラス.....	9.1	3.4	9.3	21.0	33.8	23.4

④ そうじをする時に、子どもたちはそうじをするための特別の班を作りますか。

1. 学級をこえて班を作る	29.1	3. 学級中のふつうの班を活用する	21.8
2. 学級の中で班を作る	48.3	4. 特に班を作らない	0.8

⑤ いわゆる「たて割りそうじ」を行っていますか。

行った ことはない	以前行っていたが 現在は行っていない	現在 行っている
55.9	12.2	31.9

⑥ 貴校では小学1年生に「そうじ」を担当させますか。

1年生の 最初から 担当させる	1年生の 途中から 担当させる	2年生 以降になって 担当させる
38.1	52.1	9.8

⑦ SQ 教室以外の場所は何年生から担当させますか。

1年生 から	2年生 から	3年生 から	4年生 から	5年生 から	6年生 から
33.6	28.2	26.7	9.6	1.6	0.3

⑦ 貴校では1~4のようなところのワックスがけを誰に担当させていますか。

	児童	主事さん (用務員さん)	教職員	保護者	業者	行って いない
1. 普通教室.....	57.6	4.3	18.6	0.5	3.3	15.7
2. 特別教室.....	54.6	7.4	18.0	0.6	3.7	15.7
3. 職員室や校長室.....	31.5	32.1	16.5	0.4	3.5	16.0
4. 体育館・講堂.....	50.9	7.2	12.7	1.6	9.4	18.2

8 貴校では、「そうじ」をする時の服装が特にきまっていますか。

1. きまっている 42.3  
2. きまっていない 57.7

SQ 「きまっている」と答えられた方だけにおたずねします。どのような服装で「そうじ」をするのですか。1つだけお選びください。

1. 帽子のみかぶる 26.5  
2. 体操服 47.6  
3. その他 ( ) 25.9

9 特別に「そうじ」に力を入れてやる日がきまっていますか。

1. ある 67.9 2. ない 32.1

SQ 「ある」と答えられた方だけにおたずねします。その日(時間)の名称があればお教えてください。また、その日(時間)はどんな点に力を入れて「そうじ」をするのですか。

名称

力を入れてそうじをする点(例、草とり、どぼそうじ)

10 「トイレそうじ」「プールそうじ」についておたずねします。

① 児童用トイレは誰がそうじをしていますか。記号に1つ○をおつけください。

1. 児童 81.7 2. 教職員 3.5 3. 業者 3.7 4. 保護者 0.4 5. その他( ) 10.7

② 職員・来客用トイレは誰がそうじをしていますか。

1. 児童 28.9    2. 教職員 33.3    3. 業者 5.4    4. 保護者 0.4    5. その他( ) 32.0

③ プール(の内側)は誰がそうじをしていますか。

1. 児童 81.3    2. 教職員 7.9    3. 業者 4.7    4. 保護者 2.5    5. その他( ) 3.6

11 「そうじ用具」「ゴミの処理」についておたずねします。

① 床は主に何でふいていますか。記号に1つ○をおつけください。

1. ぞうきん 82.2    3. ウォッシャー(電動床みがき機) 0.1  
2. モップ 16.1    4. その他( ) 1.6

② ゴミはどのように処理していますか。

1. ダストシュートにする 6.9  
2. 袋につめておいて回収車に持って行ってもらう 13.9  
3. ゴミ箱を焼却炉へ持って行って中のゴミをもやす 76.5  
4. その他( ) 2.7

③ 教室にそうじ用具入れ(ロッカーなど)がありますか。

ある 94.6 \_\_\_\_\_ ない 5.4

④ それでは、教室にはどのようなそうじ用具が備えつけてありますか。

用具がない場合は0本とお答えください。

1) ほうき	平均 4.37	本	5) バケツ	平均 1.87	つ
2) はたき	1.46	本	6) ぞうきん	13.38	枚
3) ちりとり	1.56	本	7) タワシ	2.08	つ
4) モップ	2.16	本			

⑤ ぞうきんは学校で用意しますか、子どもに持ってこさせますか。

ほぼ全部 学校で用意する 14.7    半分半分 9.9    ほとんど子どもに 持ってこさせる 38.3    全部子どもに 持ってこさせる 37.1

12 貴校の子どもたちのそうじの実態についておたずねします。

(1) 子どもたちはそうじをよくしているとお感じですか。

とても 17.0    わりと 74.8    すこし 8.1    ぜんぜん 0.1  
よくしている    している    している    していない

(2) 子どもたちはそうじの時、おしゃべりばかりしている感じですか。

とても よくしている	わりと している	すこし している	ぜんぜん していない
2.8	38.4	56.1	2.7

(3) 男の子と女の子ではどちらのほうがよくそうじをしていますか。

男の子のほうが とてもよく している	男の子のほうが わりと している	どちら とも いえない	女の子のほうが わりと している	女の子のほうが とてもよく している
0.1	1.4	55.2	41.2	2.1

13 貴校の子どもたちをご覧になって次のことについてどのような感じをおもちですか。

- (1) 子どもたちは全体としてそうじを...  
するのが好きだと思いますか。
- |             |             |             |                |
|-------------|-------------|-------------|----------------|
| とても<br>そう思う | わりと<br>そう思う | すこし<br>そう思う | ぜんぜん<br>そう思わない |
| 1.2         | 27.1        | 47.9        | 23.8           |
- (2) そうじをいっしょうけんめいする  
子どもは、他のことにもいっしょ  
うけんめい取りくむと思いますか。
- |      |      |     |     |
|------|------|-----|-----|
| 39.7 | 49.6 | 9.5 | 1.2 |
|------|------|-----|-----|
- (3) 学級経営がうまくいっているクラ  
スほど、そうじもよくしていると...  
思いますか。
- |      |      |     |     |
|------|------|-----|-----|
| 54.2 | 39.0 | 5.3 | 1.5 |
|------|------|-----|-----|
- (4) 学校経営がうまくいっている学校  
ほど、そうじもよくしていると...  
思いますか。
- |      |      |     |     |
|------|------|-----|-----|
| 48.1 | 44.5 | 6.3 | 1.1 |
|------|------|-----|-----|
- (5) 現在、家庭で子どもたちに「そう  
じ」をさせていると思いますか。
- |     |     |      |      |
|-----|-----|------|------|
| 0.9 | 5.9 | 51.9 | 41.3 |
|-----|-----|------|------|

14 あなたは、子どもにそうじをさせることに教育的意義があると思いますか。  
ご意見をお聞かせください。

意義が とてもあると思う	わりとある と思う	すこしある と思う	ぜんぜんない と思う
78.8	19.5	1.7	0

※ご意見を具体的にお書きください。



15 貴校の「そうじ」の指導のようすについてお教えてください。

(注 貴校名を公表するようなことは、けっしてありません。)

	とても よくしている	わりと している	すこし している	ぜんぜん していない
(1) 先生方は、「そうじ」の時間、クラスの「そうじ場所」を見まわりますか。	38.0	51.9	9.8	0.3
(2) 先生方は、「ほうきのはき方」「ぞうきんのしぼり方」など、そうじの仕方を子どもたちに教えていますか。	24.8	58.0	16.9	0.3
(3) 職員会議などで、「そうじ」が議題に取りあげられることがありますか。	11.7	44.5	40.1	3.7
(4) 「そうじ」のことが、先生方の日ごろの話題にのぼることがありますか。	10.3	47.4	40.5	1.8

- (5) 貴校では、「そうじ」の指導をする上で、特に力を入れていることがありますか。ありましたら具体的にお教えてください。

(例、たて割りのそうじの班)

16 あなたは、「そうじ」の指導は学校ですべきことだと思いますか。ご意見をお聞かせください。

とても そう思う	わりと そう思う	すこし そう思う	ぜんぜん そう思わない
42.7	45.4	10.9	1.0

※ご意見を具体的にお書きください。

- 17 あなたは、他の学校へ行かれたとき、その学校の経営状態を判断する材料として、「そうじ」がよくされているかどうかをご覧になりますか。もしご覧になるとすれば、どういうところをご覧になりますか。

とても重要視 してみる	わりと重要視 してみる	すこし重要視 してみる	ぜんぜん みない
26.0	53.9	19.2	0.9

※どういうところをご覧になるのか具体的にお書きください。

- 18 あなたは、木造校舎、鉄筋校舎、プレハブ校舎では、子どもたちのそうじに対する意識が変わってくるとお思いますか。ご意見をお聞かせください。

とても 変わって くと思う	わりと 変わって くと思う	すこし 変わって くと思う	ぜんぜん 変わら ないと思う
21.3	37.1	25.8	15.8

※ご意見を具体的にお書きください。

- 19 小学校の「そうじ」も、予算を立てて業者に任せることが可能になったとします。あなたは業者に任せることに賛成しますか。

	賛成	どちらとも いえない	反対
1. 普通教室	0.6	6.8	92.6
2. 理科室や音楽室などの特別教室	7.2	18.1	74.7
3. ろうかや階段	6.8	13.5	79.7
4. 職員室	12.6	23.8	63.6
5. 校長室	13.3	25.2	61.5

●資料 調査票見本および集計表

	賛成	どちらとも いえない	反対
6. 給食室	29.4	27.0	43.6
7. 玄関	9.0	17.9	73.1
8. 校庭	10.5	17.6	71.9
9. プール	43.0	21.9	35.1
10. 体育館・講堂	16.2	17.4	66.4
11. 宿直室(休けい室)	18.5	30.1	51.4
12. 保健室	8.7	21.1	70.2
13. クツ箱(ゲタ箱)の中	4.6	12.7	82.7
14. トイレ	25.9	21.6	52.5
15. 窓ガラス	65.4	19.3	15.3

20 最後に貴校の規模・組織についておたずねします。

(1) 学級数はどれくらいですか。

25学級 以上	13~24 学級	7~12 学級	6学級 以下
23.3	34.8	18.4	23.5

(2) 校舎の種類は何ですか。○を1つおつけください。

1. 木造	16.6	2. 鉄筋	69.7	3. プレハブ	0.2	4. 木造と鉄筋	10.6
5. 木造とプレハブ	0.5	6. 鉄筋とプレハブ	1.8	7. 木造と鉄筋とプレハブ	0.6		

(3) 校舎の床はどのような種類の床ですか。

1. 木	64.1	2. タイル	19.7	3. ゴム(ビニール)	9.9	4. コンクリート	4.0	5. その他	2.3
------	------	--------	------	-------------	-----	-----------	-----	--------	-----

(4) グラウンドについてお答えください。

1. 土のまま	97.1	2. コンクリート(アスファルト)	1.1	3. 芝生	1.8
---------	------	-------------------	-----	-------	-----

(5) 普通教室の中に水道(ながし)がありますか。

ある	14.0	ない	86.0
----	------	----	------

(6) 主な敷地のようすについてお答えください。

砂地	粘土質	黒土や赤土	コンクリート (アスファルト)	芝生	砂利
24.3	23.4	46.7	2.2	1.3	2.1

(7) 敷地

m<sup>2</sup>

5千以下	12.6	1.5万~2万	19.3	3万以上	9.4
5千~1万	18.8	2万~2.5万	12.5	(単位はm <sup>2</sup> )	
1万~1.5万	23.6	2.5万~3万	3.8		

